



FOCUS *CR*, FOCUS *CR*e, FOCUS *CR* TTL

製品取扱説明書



I. イントロダクション

フォーカス CRをご購入いただきありがとうございます!

はじめにこのマニュアル全体を読むことなく、この車椅子を使用しないでください。乗車する前に、担当医・セラピスト・車椅子販売店によるこの車椅子の安全な使用に関するトレーニングを受ける必要があります。

この車椅子、このマニュアル、弊社またはお客様の小売業者が提供するサービスについてご質問やご不明な点がある場合は、お気軽に電話でお問い合わせください。

株式会社ユーキ・トレーディング
〒110-0008
東京都台東区池之端2-5-46
TEL : 03-3821-7331
FAX : 03-3821-7552
MAIL : info@yukitrading.com
HP: www.yukitrading.com



II. 目次

I.	イントロダクション	
II.	目次	
III.	通知-使用前にお読みください	
A.	安全性と安定性	4
IV.	警告	
A.	注意喚起の用語	4
B.	一般的な警告	5
C.	ポジショニングベルト	6
D.	乗車時	7
E.	パワードライブ	8
F.	階段を上る場合	8
G.	階段を下る場合	8
H.	移乗	9
I.	車椅子と使用環境	9
J.	車椅子の改造	10
K.	車椅子の安定性	10
V.	車椅子のセットアップと使用	
A.	フォーカス CRと付属部品	13
B.	輸送時	14
C.	高さ調整式 T型アームサポート	17
D.	高さ調整式 前後支柱アームサポート	19
E.	角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート	20
F.	アームサポート使用上の警告	20
G.	スイングアウェイハンガー	21
H.	4-Wayタイプラッチ付スイングアウェイハンガー	22
I.	延長チューブ	23
J.	エレベーターフットサポート	24
K.	Proエレベーターフットサポート (Pro-ELR)	25
L.	小児用Proエレベーターフットサポート (小児用Pro-ELR)	26
M.	拘縮用フットサポート	27
N.	マルチアングルフットプレート	28
O.	バックレスト	29
P.	リクライニング式バックレスト	31
Q.	チルトメカニズム	34
R.	シートフレームのセットアップ	36
S.	キャスター	37

II. 目次

T.	アクスルプレート	38
U.	リアホイール	40
V.	ホイールロック	41
W.	ドラムブレーキ	43
X.	フレーム幅	44
Y.	転倒防止装置	45
Z.	シートパン	46
AA.	ベアリング	47
BB.	医療機器搭載台およびバッテリーホルダー	48
CC.	酸素ボンベホルダー	48
DD.	キャノピー	49
VI.	メンテナンス	
A.	車椅子の点検	50
B.	定期メンテナンス	51
C.	洗浄	52
D.	保管	52
VII.	トラブルシューティング	53
VIII.	保証	55

III. 通知-使用前にお読みください

A. 安全性と安定性

Ki Mobilityは、ニーズに合ったさまざまな車椅子を製造しています。特定の要件に最適なモデルや、車椅子のセットアップおよび調整方法を選択する際には、担当医・セラピスト・車椅子販売店に相談してください。車椅子の種類、オプション、調整の最終選択は、あなたと彼らあなたの医療専門家のみが行います。選択したオプション、車椅子のセットアップと調整は、その安定性に直接影響します。安全性と安定性に影響する考慮すべき要素は次のとおりです。

- 筋力、バランス、適合など、個人の能力。
- 日中に遭遇する可能性のある危険と障害の種類。
- 特定の寸法、オプション、セットアップ。特に、シートの高さ、シートの奥行き、シートの角度、バックレストの角度、後輪のサイズと位置、フロントキャストのサイズと位置。これらのアイテムのいずれかを変更すると、車椅子の安定性が変わります。資格のある専門家に相談してから変更を行う必要があります。

IV. 警告

A. 注意喚起の用語

このマニュアルには、注意喚起の言葉が記載されています。これらの単語は、さまざまなハザードの重大度を識別して伝えるために使用されます。この車椅子を使用する前に、あなたとあなたを介助する人は、このマニュアル全体を読んでください。注意喚起の用語に注意し、「危険」「警告」「注意」を考慮してください。すべての指示に従い、車椅子を安全に使用してください。注意喚起の用語は、あなたまたは他の人に重傷または死亡を引き起こす可能性のある危険または危険な行為を指します。次の3つの主要なカテゴリに分類されます。

危険- 回避しないと、重傷または死亡につながる差し迫った危険な状況を示します。

警告- 回避しないと、重傷または死亡につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

注意- 回避しないと、怪我や車椅子の損傷につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

これらの注意喚起の用語は、危険な状況を強調するために、必要に応じてマニュアル全体に配置されます。この車椅子の一般的な使用に適用される危険な状況については、次のリストを参照してください。

IV. 警告

B. 一般的な警告

WARNING

警告: 標準フレームでは重量制限である136 kg、ヘビーデューティーフレームでは181 kgを超えないでください。耐荷重はシリアルナンバーラベルを参照ください。これは、ユーザーと携行するすべてのアイテムの合計重量です。重量制限を超えると、椅子が損傷したり、転倒したり、背中が倒れたりして、ユーザーや他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性が高くなります。

DANGER

危険: この車椅子をウエイトトレーニングに使用しないでください。追加のウエイトを動かすと、車椅子の重心が変わり、転倒の可能性が高くなり、車椅子が損傷したり、あなたや他の人に重傷や死亡を引き起こす可能性があります。

WARNING

警告: 車椅子にエアタイヤが装備されている場合、タイヤのサイドウォールに示されている正しい空気圧まで空気が充填されていることを確認してください。車椅子の提供者は、空気入りタイヤがあるかどうかを判断できます。タイヤを適切に膨らませずに車椅子を使用すると、車椅子の安定性に影響を与え、車椅子が転倒して、ユーザーまたは他の人が死亡または負傷する可能性があります。

DANGER

危険: 車椅子を傾斜路の上または下に押し下したり、9度を超える斜面を横切ったりしないでください。これは危険であり、転倒や転倒の可能性が高くなり、ユーザーや他の人に重傷や死亡をもたらす可能性があります。

WARNING

警告: 滑りやすい場所、氷、油、または水で覆われている斜面に車椅子を押し上げないでください。これにより、不安定な状況が発生し、ユーザーまたは他の人が死亡または負傷することがあります。

WARNING

警告: 車椅子の横や後ろに寄りかかって手を伸ばさないでください。これにより、車椅子から転倒したり、転倒してけがや死亡の原因となることがあります。

DANGER

危険: アームやフットレストなどの取り外し可能な部品を持って車椅子を持ち上げようとせず、フレームをつかんで車椅子を持ち上げるようにしてください。急ると、転倒または制御不能が生じ、重傷または死亡に至る可能性があります。

CAUTION

注意: さまざまなコンポーネントをフレームに固定するボルトとハードウェアを締めすぎないでください。これは深刻な損傷を引き起こし、車椅子の安全性と耐久性に影響を与える可能性があります。

IV. 警告

C. ポジショニングベルト

ポジショニングベルトは、車椅子上での適切なポジショニングを支援するように設計されており、シートベルトとして設計されていません。ユーザーの姿勢をサポートする目的でのみポジショニングベルトを使用してください。

ポジショニングベルトの誤用は、ユーザーの重傷または死亡の原因となる場合があります。

- ユーザーが車椅子上でポジショニングベルトの下を滑らないようにしてください。この場合、ユーザーの呼吸が妨げられ、死亡または重傷を負う可能性があります。
- ポジショニングベルトは、姿勢を保持できる程度には締まっているが、呼吸を制限するほどきつくならない程度にぴったりとフィットしている必要があります。ポジショニングベルトとユーザーの間で手をスライドさせることができる程度です。
- 以下のような場合にはポジショニングベルトを使用しないこと。
 - a. 拘束具として。拘束には医師の指示が必要です。
 - b. 意識を失っているユーザー。
 - c. 自動車の乗員拘束装置として。ポジショニングベルトは、乗り物のフレームに取り付けられているシートベルトを置き換えられるようには設計されていません。急停止による力で、ユーザーは前方に投げ出されます。車椅子のシートベルトではこれを防ぐことはできず、ベルトやストラップでさらに怪我をする可能性があります。トランジットの使用（V. 車椅子のセットアップと使用-セクションB）を参照してください。



DANGER



危険: 上記の指示に従わない場合、重傷または死亡に至る恐れがあります。

IV. 警告

D. 乗車時

車椅子は、コンクリート、アスファルト、フローリングなど平らな地面で使用するよう設計されています。濡れた路面や滑りやすい路面で車椅子を押す場合は注意してください。



WARNING



警告: 車椅子で砂、ゆるい土壌、または起伏の多い地形に入らないでください。これにより、安定性が失われ、転倒または制御不能となり、重傷または死亡の原因となる場合があります。



WARNING



警告: 障害物や道路の危険（穴や壊れた舗装など）は、車椅子に損傷を与えたり、転倒、または制御不能になる可能性があります。この指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。



DANGER



危険: 車椅子でエスカレーターに乗らないでください。エスカレーターで車椅子を使用すると、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

これらのリスクを最小限に抑えるには:

- 1) 危険察知の為、乗車時は遠くを見るようにしてください。
- 2) あなたの生活の場や職場の床が平らで、障害物がないことを確認してください。
- 3) 部屋の間の敷居は取り除くか、覆ってください。
- 4) 入口や出口のドアにライトを設置し、ライトの下部に落下物がないことを確認してください。
- 5) バランスの中心を修正するには
 - a. 障害物を乗り越える時に上半身を少し前方に傾けます。
 - b. 上から下に降りるにつれて、上半身を後方に押します。
- 6) 車椅子に転倒防止がある場合は、障害物の上に上がる前にそれらを所定の位置にロックします
- 7) 障害物を乗り越えるときは、両手をハンドリムの上に置いてください。
- 8) 車椅子を進めるために物(家具や玄関など)を押したり引いたりしないでください。
- 9) 公道、高速道路で車椅子を操作しないでください。
- 10) 支援なしで障害物を乗り越えようとしないでください。

IV. 警告

E. パワードライブ

Ki Mobilityは、フォーカス CRにパワードライブシステムを取り付けることを推奨していません。

フォーカス CRは電動車椅子として設計またはテストされていません。パワードライブシステムをフォーカス CRに取り付ける場合、パワードライブシステムのメーカーがフォーカス CRとパワードライブシステムの組み合わせを安全かつ効果的であると検証し、承認していることを確認してください。



WARNING

警告: 適切に検証されていないパワードライブシステムを使用すると、重傷または死亡につながる可能性があります。

F. 階段を上る場合

- ユーザーと車椅子の重量を支えるのに十分な力とスキルを備えた2人以上が、車椅子ごと階段を上るときに支援してください。
- 車椅子とユーザーが階段の下に移動します。
- ユーザーの前後に1人ずつ配置します。前側の人は車椅子の取り外しできない部分を掴まなければなりません。
- 背後の人が車椅子を後ろに傾け、両方が一緒に持ち上げます。一度に一步を踏み出します。
- これには、転倒防止装置を跳ね上げるか取り外す必要がある場合があります。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が再び取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。



DANGER

危険: 上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

G. 階段を下る場合

- 階段を降りる際、ユーザーは階段の反対側を向く必要があります。
- ユーザーと車椅子の重量を処理するのに十分な力とスキルを持っているユーザーの後ろの人は、車椅子を後方に傾け、車椅子を後輪で1つずつ階段から降ろします。
- これには、転倒防止装置を跳ね上げるか取り外す必要がある場合があります。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が再び取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。



DANGER

危険: 上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

IV. 警告

H. 移乗

移乗には、良好なバランスと安定性が必要です。自分で移乗を試みる前に、セラピストからトレーニングを受ける必要があります。

- 車椅子からの移乗前に、2台の隙間を減らすために細心の注意を払う必要があります。
- ホイールロックを掛けて後輪をロックします。
- キャスターを前方に回転させ、車椅子のホイールベースを増やします。
- フットレストを取り外すか、スイングアウェイします。
- 移乗の経験が豊富でない場合、誰かの援助が必要です。

自分だけで乗り移るのは危険です。バランスと俊敏性が必要です。車いすの座面があなたの下にない場合、車いすの座席があなたの下にない場合、すべての移乗中に注意すべき点があることに注意してください。



WARNING

警告: 上記の指示に従わない場合、転倒または制御不能になり、重傷または死亡に至る可能性があります。

I. 車椅子と使用環境

- 車椅子は、金属や布など、さまざまな素材で作られています。水や過度の湿気にさらされると、車椅子の金属が錆びたり腐食したり、布が裂けたりする可能性があります。水にさらされた場合は、できるだけ早く椅子を乾かしてください。
- シャワー、プール、または体が濡れた状態で車椅子を使用しないでください。これにより、車椅子が錆びたり腐食したりし、最終的には故障します。
- 車椅子を砂の上で操作しないでください。砂がホイールベアリングや可動部品に侵入する可能性があります。これにより損傷が生じ、最終的に車椅子が故障します。
- 乗ろうとするランプ、スロープ、縁石の切り口がADAガイドラインに準拠していることを確認してください。勾配が大きすぎる場合は、安定性が失われる可能性があります。

ADAガイドラインおよびアクセシビリティ設計に関する詳細情報は、以下で入手できます。

<http://www.ada.gov/>



WARNING

警告: 上記の指示に従わない場合、転倒または制御不能になり、重傷または死亡に至る可能性があります。

IV. 警告

J. 車椅子の改造

車椅子は、厳格な設計管理の下で設計および製造されています。このプロセスの不可欠な部分は、さまざまなコンポーネントが正しく連携することを保証することです。それらは品質を保証するためにさまざまな基準でテストされており、連携することが承認されています。

このマニュアルに従っての調整、Ki Mobility承認オプションの追加を除き、この車椅子を改造しないでください。フレームを掘削や切断することは認められません。Ki Mobilityが提供していないアクセサリまたはコンポーネントを追加する場合は、事前に(株)ユーキ・トレーディングまたは販売店にお問い合わせください。

DANGER

危険:これらの指示に従わない場合、車椅子が故障し、重傷または死亡に至る可能性があります。

K. 車椅子の安定性

車椅子の適切な安定性を確保するには、重心と車椅子のベースがバランスと能力に合っていることを確認する必要があります。これらの2つの要素には多くの要因が影響します。

- ・座面の高さ
- ・座面の奥行
- ・バックレストの角度
- ・座面の角度
- ・後輪のサイズと位置
- ・フロントキャスターのサイズと位置
- ・シーティングシステムのコンポーネント
- ・ティルト位置

一般的に、最も重要な要素は後方安定性のための後輪の位置です。これらは逆に安定性に悪影響を与える可能性がある働きがあります。これがあなたの使用にどのように影響するかを決定する際には、車椅子提供者とあなたのニーズと能力に精通した臨床医と相談する必要があります。

WARNING

警告:この車椅子には、シートフレームの傾斜角度を変えるシステムが装備されています。傾斜角度が変化する全ての範囲で車椅子が安定していることを確認してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:後輪を前方に調整すると、車椅子が後方に傾く可能性が高まります。車いすの新しいバランスポイントがわかるまで、少しずつ調整しゆっくり動かしします。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

IV. 警告

K. 車椅子の安定性

WARNING

警告:フロントキャスターを後方に置くほど、車椅子が前方に傾く可能性が高まります。可能であれば、キャスターを前方に取り付け、体重を移動する静的なアクティビティを行うときは常に、キャスターを前方に回転させてホイールベースを増やします。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:必ず、資格のある技術者に、毎日使用する予定の付属品で車椅子をセットアップしてもらいます。

WARNING

警告:座り方の変更や体重の変更には、資格のある技術者による椅子の再調整が必要です。椅子のセットアップの変更に順応する間は、常に転倒防止装置を使用してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:毎日の活動中の重心の変化は1日に何度も発生し、車椅子の安定性に影響を及ぼします。これらの活動を認識し、転倒のリスクを最小限に抑えるための予防策を講じる必要があります。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:車椅子上で着替えると、動きと一時的な位置の移動が生じ、安定性が低下する可能性があります。転倒防止装置が所定の位置にあることを確認し、キャスターを前方に回転させます。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:物に手を伸ばす際、この動きで座席を移動する必要がある場合は、最大限注意してください。これにより、重心が変わります。転倒防止装置が適切に配置されていることを確認してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:傾斜を押し上げると、重心が後方に移動し、安定性が低下する可能性があります。転倒防止装置が適切に取り付けられていることを確認してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

IV. 警告

K. 車椅子の安定性

⚠ WARNING ⚠

警告: ウイリーで縁石や障害物を乗り越えようとする場合は、転倒防止装置を所定の位置に設定し、身体が前かがみになっていることを確認してください。訓練を受けており、必要に応じて支援を提供するために常にあなたの後ろに付き添い人がいる場合を除き、ウイリーを試みないでください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠ WARNING ⚠

警告: バックパックやブリーフケースなど、車椅子の背面または前面にアイテムを配置すると、車椅子のバランスと重心が変化します。これらのアイテムの重量は使用するたびに大きく変わる可能性があるため、バランスポイントに慣れていると思いこまないでください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

車椅子に重いものを載せると、バランスに悪影響が出て、ひどい怪我や死亡につながる可能性があることにくれぐれも注意してください。

⚠ WARNING ⚠

警告: 転倒防止装置が適切に取り付けられていることを確認してください。車椅子の使用方法または計画している変更については、臨床医と話し合う必要があります。この指示に従わないと、潜在的な危険な状況が発生する可能性があり、回避しないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

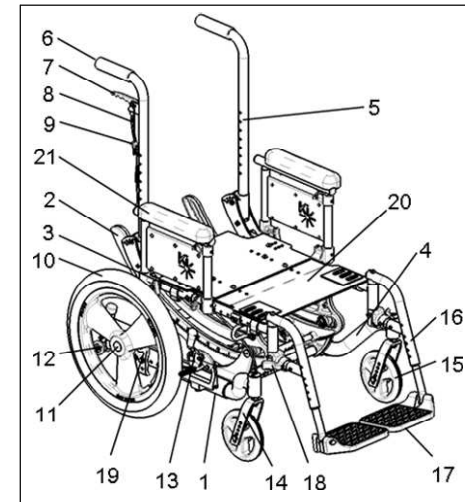
V. 車椅子のセットアップと使用

A. フォーカス CRと付属部品

1. この車椅子の点検と整備は、56ページの「メンテナンス」を参照してください。
2. 問題を発見した場合は、車椅子の使用前に必ず調整・修理を実施してください。
3. 毎年、認定サプライヤーより車椅子の完全な検査、安全確認、および点検を受けてください。

⚠ WARNING ⚠

警告: これらの指示を読まなかったり、守らなかった場合、車椅子の破損、転倒、制御不能等に陥り、ユーザーや他の人々に重大な傷害を与える可能性があります。



- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. ベースチューブ | 12. 転倒防止装置 |
| 2. ロータリーフレーム | 13. ホイールロック |
| 3. シートチューブ | 14. キャスターフォーク |
| 4. キャスターアーム | 15. キャスターホイール |
| 5. バックケイン | 16. スイングアウェイハンガー |
| 6. ブッシュハンドル | 17. フットレスト |
| 7. チルトレバー | 18. スイングアウェイレバー |
| 8. チルトケーブル | 19. アクスルプレート |
| 9. レバーロックピン | 20. シートパン |
| 10. リアホイール | 21. アームレスト |
| 11. クイックリリース
アクスル | |

V. 車椅子のセットアップと使用

B. トランジットの使用

適切なシートベルトとショルダーベルトを使用して、車椅子から自動車のシートに移るのが最も安全です。車載オプションが取り付けられていない限り、この車椅子を自動車の座席として使用しないでください。

車載オプションが取り付けられたFocus CRは、RESNA WC-4 : 2012、セクション19 : 自動車の座席として使用される車椅子、およびISO 7176-19 : 2008車椅子 の試験に合格しています。RESNAおよびISO規格は、車椅子を自動車の座席として使用する際の構造的完全性を試験するために作られています。これらの規格は、WTORS(車椅子の固定及び乗員拘束システム)との互換性をもつようにも設計されています。

フォーカス CRは、仕様によっては車載オプションを取り付けられない場合があります。Ki Mobilityはオーダーの内容を管理しており、車載オプションをオーダーされた場合においては車載オプションが取り付けられる仕様でなければフォーカス CRを提供しません。 既にお乗りのフォーカス CRに車載オプションを取り付けたい場合、装着の可否をKi Mobilityもしくは販売店へご相談ください。

車載オプションの一部として設計され、テストされた元の機器の座席とバックサポートが、アフターマーケット製品に取り替えられているかもしれません。車椅子の提供者は、提供している座席が、オリジナルの製品か純正ではないアフターマーケットの製品かをあなたに伝える必要があります。車載オプションを装備したフォーカス CRを自動車の座席として使用する前に、このセクションに記載されている全ての基準に準拠している車椅子フレーム・座席・車椅子固定装置および乗員拘束装置の完全なシステム・適切に装備された自動車を準備する必要があります。

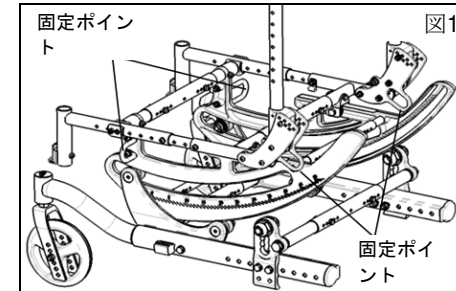
車椅子を自動車の座席として使用する場合、必ず以下の指示に従ってください。

- ・ 前向きに座ってください。
- ・ 車椅子の搭乗者および積載品の総重量が136 kg(ヘビーデューティーオプション装着時は181 kg)を超えないようにしてください。
- ・ バックパックやポーチは、事故が発生した場合これらが危険な発射物になり、あなたや他の乗員を殺傷する可能性があります。取り外して自動車に固定してください。

V. 車椅子のセットアップと使用

B. トランジットの使用

- ・ 搭乗者は、下記に準拠した車椅子固定装置及び乗員固定システムを使用しなければなりません。(RESNA WC-4 : 2012のセクション18 : 自動車で使用される車椅子固定および乗員拘束システム。ISO 10542-1 : 2012 障害者又は身体障害者用の補助具 - 車椅子の縛り付け及び乗員固定システム - 第1部 : すべてのシステムに対する要求事項及び試験方法)



- ・ 車椅子固定メーカーの説明書およびRESNA WC-4に従い、車載オプション(図1)を使用して、フォーカス CRの4か所の固定ポイント(前2ヶ所、後2ヶ所)に車椅子固定具を取り付けます。 : 2012、セクション18、またはISO 10542-1 : 2012 - パート1。
- ・ 乗員固定装置の取付けは、メーカーの指示およびRESNA WC-4:2012, Section 18 もしくはISO 10542-1:2012, Part 1に従って実施してください。
- ・ RESNA WC-4:2012, Section 18もしくはISO 10542-1:2012, Part 1に準拠していない限り、ラップベルト、チェストストラップ、ショルダーハーネスその他ポジショニング用アクセサリを使用したり、乗員拘束装置として信頼しないでください。
- ・ RESNA WC-4 : 2012のSection 18、またはISO 10542-1 : 2012のパート1、RESNA WC-4 : 2012、セクション20 : 自動車用の車椅子用座席システム、ISO 16840-4 : 2009車椅子用の座席 - パート4 : 自動車用に使用される座席システムに準拠していない限り、ヘッドサポート、ラテラルサポート、または他のポジショニング用アクセサリを使用したり、乗員拘束装置として信頼したりしないでください。
- ・ 純正でないアフターマーケット製品は、RESNA WC-4:2012, Section 20 もしくは ISO 16840-4:2009 - Part 4準拠で試験を実施する必要があります。
- ・ 車椅子フレームへのシーティングシステムの取付けは、シーティングシステムメーカーの指示およびRESNA WC-4:2012, Section 20 or ISO 16840-4:2009 - Part 4に従って実施してください。
- ・ トレイ、酸素タンクホルダー、酸素タンク、IVポール、バックパック、ポーチなど、Ki Mobility製ではないアフターマーケットアクセサリは、事故が発生した場合これらが危険な発射物になり、あなたや他の乗員を殺傷する可能性があります。取り外して自動車に固定してください。



危険 : これらの指示に従わなかった場合、重傷または死に至る可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

B. トランジットの使用

- この車椅子を自動車の座席として使用する場合、ベントトレイ、バッテリートレイ、酸素ボンベホルダーについているものを全て取り外し、別々にしっかりと固定する必要があります。



危険: ベントトレイ、バッテリートレイまたは酸素ボンベホルダーについているものを取り外し、それらを自動車に別々にしっかりと固定しない場合、事故の際にこれらが危険な発射物になる可能性があります。酸素ボンベには、激しく燃焼を加速させる高圧ガスが含まれています。この警告を守らない場合、重大な人身事故または死亡につながる可能性があります。

- 車椅子に酸素ボンベホルダーが装備されている場合、車椅子を自動車の座席として使用しないでください。



危険: 酸素ボンベホルダーが装備された「フォーカス」を自動車の座席として使用した場合、重傷または死に至る恐れがあります。

注: RESNAまたはISO規格のコピーを入手する場合、以下の規格団体にご連絡ください。

RESNA
1700 N Moore St Ste 1540
Arlington, VA 22209
Phone: 703-524-6686
Fax: 703-524-6630
Email: technicalstandards@resna.org

ANSI/RESNA Standards:
RESNA WC-4:2012, Section 18:
Wheelchair tie-down and occupant restraint systems for use in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012, Section 19:
Wheelchairs used as seats in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012, Section 20:
Wheelchair seating systems for use in motor vehicles.

International Organization for Standardization (ISO)
BIBC II
Chemin de Blandonnet 8
CP 401
1214 Vernier, Geneva
Switzerland
Phone: +41 22 749 01 11
Fax: +41 22 733 34 30
Email: central@iso.org

ISO Standards:
ISO 10542-1:2012 Technical systems and aids for disabled or handicapped persons --
Wheelchair tie-down and occupant-restraint systems -- Part 1:
Requirements and test methods for all systems.
ISO 16840-4:2009 Wheelchair seating -- Part 4:
Seating systems for use in motor vehicles.
ISO 7176-19:2008 Wheelchairs -- Part 19:
Wheeled mobility devices for use as seats in motor vehicles.

V. 車椅子のセットアップと使用

C. 高さ調整式 T型アームサポート

1. 取り付け

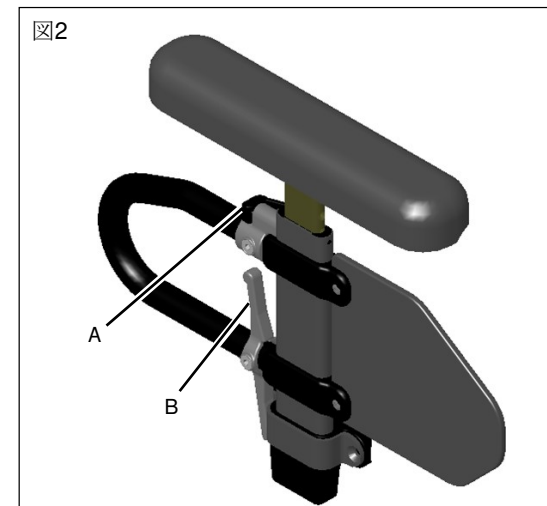
- 車椅子のフレームに取り付けられたアームレストレシーバーにアームポストを差し込みます。
- アームレストは所定の高さでロックされます。ロックレバーが下図のようになっていることを確認してください。(図 2-B)

2. 高さ調整

- リリースレバーを回します。(図2-A)
- アームパッドを任意の高さにスライドさせます。
- リリースレバーをロック位置に戻します。
- 上部アームポストが所定の位置にしっかりと固定されるまで、アームパッドを押します。ロックレバーが図のようになっていることを確認してください。(図 2-A)。

3. 取り外し

- リリースレバー(図2-B)を握り、アームレストを引き抜き取り外します。

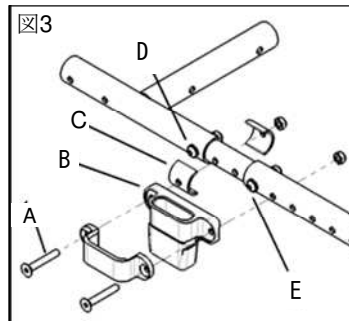


V. 車椅子のセットアップと使用

C. 高さ調整式 T型アームサポート

4. 前後位置調整

- アームレストレシーバー (図3-B) を固定している2本のネジ (図3-A) を取り外します。スペーサー (図3-C) が取り付けられている場合はそれも同時に外します。工場出荷時にスペーサーが取り付けられていない場合は別途封入しています。
- レシーバーをシートフレームの任意の位置に移動させ、ワッシャーとナットでネジを取り付け締めます。
- レシーバーを取り付けたい位置のネジがシートフレームのネジと重なる場合は (図3-D およびE)、シートフレームのネジを取り外してレシーバーのネジと交換することで取り付けることができます。取り外したネジは将来的な仕様変更時に必要になる可能性がありますのでなくさないよう保管してください。もしくは、シートフレームの別の穴に取り付けておくこともできます。
- レシーバーのネジの1本がシートフレームの拡張部分 (図3の細くなっている部分) にかかる場合は、スペーサー (図3-C) を使用しレシーバーを取り付けてください。



⚠ DANGER ⚠

危険: 上記の指示に従わなかった場合、アームレストが誤って車椅子から外れ転倒や制御不能になり、重傷または死に至る可能性があります。

⚠ DANGER ⚠

危険: アームレストを利用して車椅子を持ち上げようとししないでください。アームレストの破損、切断から転倒や制御の喪失を招き、重傷または死に至る恐れがあります。

V. 車椅子のセットアップと使用

D. 高さ調整式 前後支柱アームサポート

1. 取り付け

- 前後アームレストレシーバーのレバー (図4-AとB) を上に起こします。
- アームポストを前後レシーバーの底に着底するまで差し込みます。
- レバーを下に倒します。アームレストを持ち上げ固定されていることを確認してください。

2. 高さ調整

- アームポスト前側上部のレバー (図4-C) を手前に倒します。
- アームパッドを任意の高さに調節します。
- レバーを後方に倒し、ピンを穴に固定します。穴の高さが合わない場合は少し上下させてください。

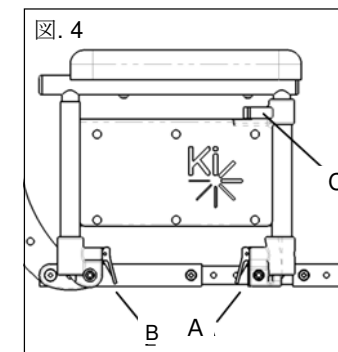
3. 跳ね上げ

- 前側レシーバーのレバー (図4-A) を起こします。
- アームレストを持ち上げて後ろに倒します。

注: アームレスト跳ね上げ時、外側に力を加えたり後方に押さないでください。後ろ側のレシーバーが破損する恐れがあります。

4. 取り外し

- 前後レシーバーのレバー (図4-AとB) を上に起こします。
- アームレストを引き抜き取り外します。



V. 車椅子のセットアップと使用

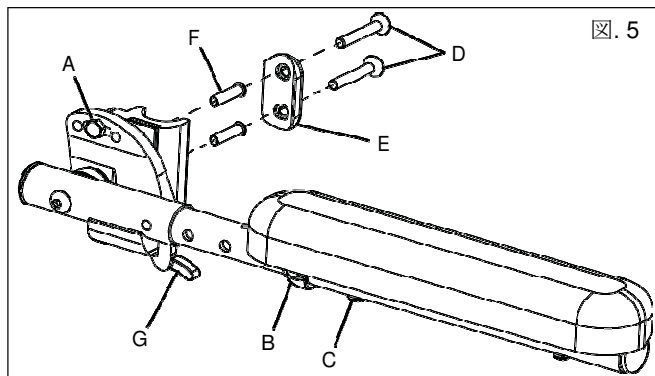
E. 角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート

調整

1. 使用者の好みに基づいて、アームレストの角度を設定します。角度を設定するために使用できる穴は5つあります(図5:A)。角度を設定したらボルトを締めます。
2. 使用者の好みに基づいて、アームレストの長さを調整します。長さを調整するには、チューブのボルトとスペーサー(図5:B)、車椅子の後ろに最も近いネジ(図5:C)を外します。希望の長さにアームレストをスライドさせたら、予め空けられた穴を使いネジとボルトを再度取り付けます。
3. 使用者の好みに基づいて、アームレストの高さを調整します。アームレストには4か所の穴があり、バックパイプの穴に対して2通りの高さの設定が可能です。使用者に適した高さの設定ができる穴を使用してください。2本のボルト(図5:D)はスペーサー(図5:E)、スリーブ(図5:F)、バックパイプを通り、アームレストに入っています。

使い方

1. リリースレバー(図5:G)を押し、アームレストを跳ね上げます。跳ね上げたアームレストを戻すには、カチッと音がするまで押し下げてください。



F. アームサポート使用上の警告

- 全てのKi Mobilityアームレストは車椅子から外れるように設計されており、車椅子の重さには耐えられません。
- 絶対にアームサポートを用いて車椅子を持ち上げないでください。アームサポートが外れ、事故が発生する可能性があります。
- 車椅子を持ち上げる際はメインフレームの取り外しができない箇所を用いてください。

⚠ DANGER ⚠

危険:自分の位置を変えるために使用する前に、佳那図アームレストが所定の位置に固定されていることを確認してください。怠った場合、転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

⚠ WARNING ⚠

警告:これらの指示に従わない場合、転倒・転落・制御不能に陥り、使用者などに重大な傷害を与える可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

G. スイングアウェイハンガー

1. 取り付け

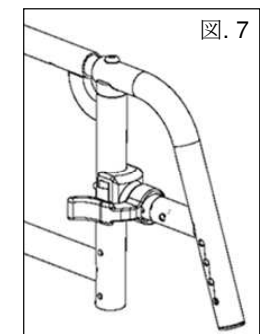
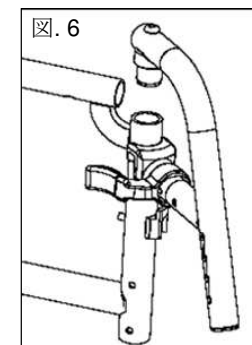
- a. フットレストがフレームの内側もしくは外側を向くようにし、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます(図6)。
- b. フットレストを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます(図7)。

2. スイングアウェイ

- a. リリースラッチをフレーム方向へ押します。
- b. フットレストを必要に応じて内側や外側に回転させます。

3. 取り外し

- a. リリースラッチをフレーム方向へ押します。
- b. フットレストを内側や外側へスイングさせ、真上に持ち上げて取り外します。



⚠ WARNING ⚠

警告:ハンガーや車椅子の使用前には、必ずハンガーが所定の位置に固定されていることを確認してください。怠った場合、転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

⚠ DANGER ⚠

危険:ハンガーを用いて車椅子を持ち上げようとししないでください。破損や破断が発生し転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

H. 4-Wayタイブラッチ付スイングアウェイハンガー

1. 取り付け

- a. 旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーパーに差し込みます(図 8:A)。
- b. フットレストを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます(図 8:B)。

2. スイングアウェイ

- a. リリースラッチを押す、または引きます。
- b. フットレストを必要に応じて内側や外側に回転させます。

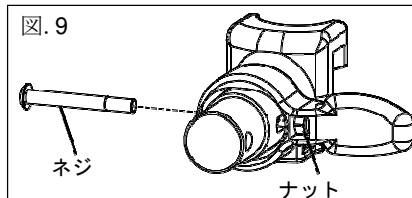
3. 取り外し

- a. リリースラッチを押す、または引きます。
- b. 取り外す前にフットレストを内側や外側へスイングさせ、真上に持ち上げて取り外します。

4. 回転 (図9)

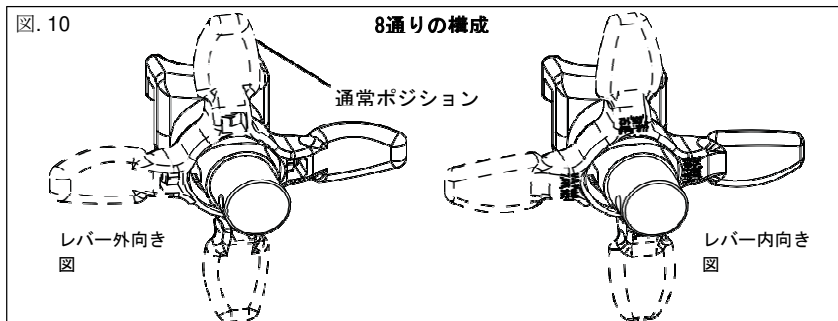
4-Wayタイブラッチには8通りの構成があります。4つはレバーのカーブが外側を向き、4つはレバーのカーブが内側を向いています。可能な構成については図10を参照してください。

- a. 4-Wayタイブラッチを回転させるには、ハンガーが車椅子に取り付けられた状態で3mm六角レンチを使用してねじを取り外します(ねじを取り外して再び挿入し、ハンガーを椅子に固定するとばねは固定されます)。ナットが落ちないことを確認してください。
- b. 4-Wayタイブラッチを任意の向きに回転させ、3mm六角レンチでネジを取り付けます。ネジを締めている間、ナットが正しい位置にあることを確認してください。この時、ネジを締めすぎないようにしてください。



注:4-Wayタイブラッチを逆向きに取り付けるには、同じネジを外し、ハンガーからラッチブロックを取り外す必要があります。ラッチをスライドさせて裏返し、再度取り付けます。ラッチボタンを押したままにして、パネが噛み合っていることを確認します。ネジを取り付ける間、ナットは所定の位置に留まります。

注:エレベーターフットサポート (Pro-ELR) ではインライン方向へ設定できません。



V. 車椅子のセットアップと使用

I. 延長チューブ

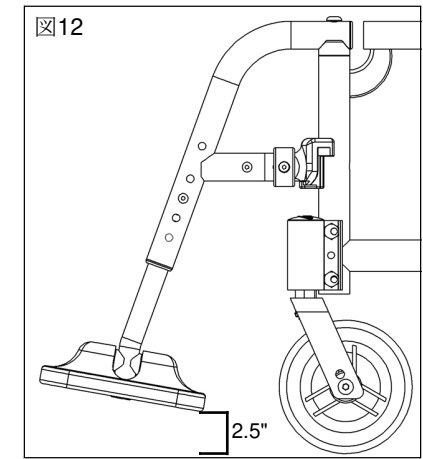
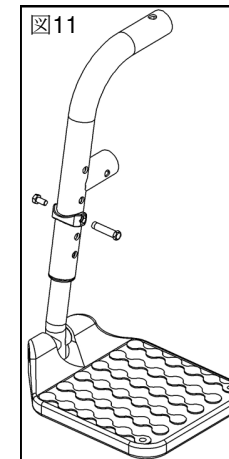
1. 調整

- a. ハンガーチューブの両側から留め具を外します。
- b. フットレスト延長チューブを任意の高さまでスライドさせます。
- c. 穴の位置を揃え、ハンガーと延長チューブを介して必要な穴に留め具を組み付けます。
- d. 反対側も同様の手順で実施してください (図11)。

フットレストの下端は、地面から最低でも2.5インチ (6.35cm) 離して設定してください。低すぎる場合、通常の使用時に遭遇すると思われる障害物に当たるなどして車椅子が急停止し、前方へ倒れる恐れがあります (図12)

移乗時のつまずきや転倒を避けるために

- フットレストの間のスペースに足が引っかからないようにしてください。
- 車椅子が前方に傾く恐れがあるため、フットレストに体重をかけないでください。



V. 車椅子のセットアップと使用

J. エレベーティングフットサポート

1. 取り付け

- フットレストをフレームの内側または外側に向けて、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。図6・図7と同様です。
- フットレストを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます。

2. 取り外し

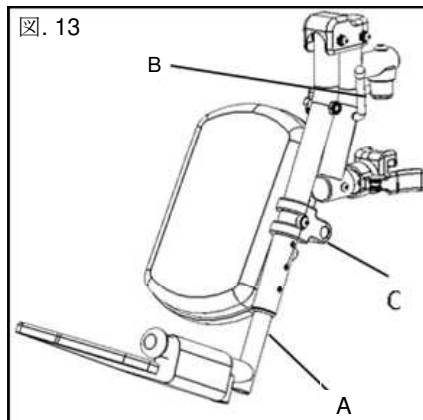
- リリースラッチをフレームの方向へ押します。
- 外側へ回転させ持ち上げます。

3. 延長チューブの調整

- ねじ切りされている取り付けボルトを取り外し、パッドブラケットの中央にあるレッグレストチューブに差し込みます（図13：C）。場合によっては、このボルトがピボットブラケットの下チューブに挿入される場合があります。
- フットレスト延長チューブを任意の高さに調整します。
- 穴の位置を揃え、レッグレストチューブと延長チューブにボルトを取り付けます。
- 反対側も同様の手順で実施してください。

4. エレベーティング角度調整

- 上げる場合、延長チューブの後部を持ち上げます（図13:A）ロッドはラチェットを通してこの方向にスライドします。任意の高さで止めます。
- 下ろす場合、延長チューブの後部から脚をしっかりと支えます（図13:A）。続いてレバーを手前に引き（図13:B）、そのままフットサポートを持ち上げます。レバーを離すと、フットサポートが任意の高さで固定されます。



移乗時のつまずきや転倒を避けるために:

- フットレストの間のスペースに足が引っかからないようにしてください。
- 車椅子が前方に傾く恐れがあるため、フットレストに体重をかけないでください。

⚠ WARNING ⚠

警告:フットレストの下端は、地面から最低でも2.5インチ(6.35cm)離して設定してください。低すぎる場合、通常の使用時に遭遇すると思われる障害物に当たるなどして車椅子が急停止し、転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

⚠ DANGER ⚠

危険:ハンガーを用いて車椅子を持ち上げようとししないでください。破損や破断が発生し転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

K. Proエレベーティングフットサポート (Pro-ELR)

取り付け

注:Pro-ELRは、スイングアウェイハンガーと同じ方法で車椅子に取り付けられます。

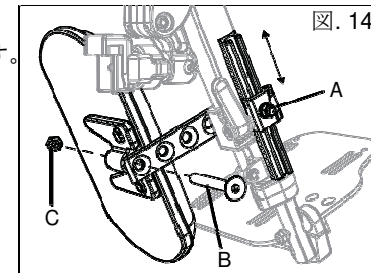
- フットサポートをフレームの内側もしくは外側に向けて、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。
- フットレストを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます。

ふくらはぎパッドの高さ調整

- 10mmのレンチを使用しナット（図14:A）を緩めます。
- ふくらはぎパッドのアームを任意の高さまで上下にスライドさせ、ナットを締めます。

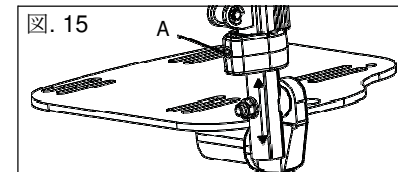
ふくらはぎパッドの奥行調整

- 5mmの六角レンチと13mmレンチを使用し、ふくらはぎパッドアームのネジ（図14:B）とナット（図14:C）を取り外します。
- 4つの穴から任意の位置を選択し、ネジとナットを取り付けます。



フットレストの高さ調整

- 4mmの六角レンチで固定用ネジ（図15:A）を緩めます。
- 延長チューブをスライドさせて任意の高さにし、固定用ネジを締めて固定します。

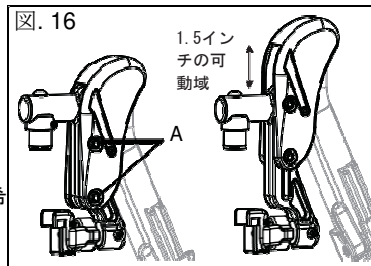


膝の高さ調整

- 10mmのソケットレンチを2本使用し、カバーの2ヶ所のナット（図16:A）を緩めます。
- 膝の高さを任意の設定に調整します。
- 調整後、2ヶ所のナットを締めます（図16:A）。

エレベーティング角度調整

- 上げる場合、レッグレストチューブ（図17:A）を希望の角度まで持ち上げます。
- 下げる場合、レバーロック（図17:B）を押し続け、レッグレストチューブを下ろします。

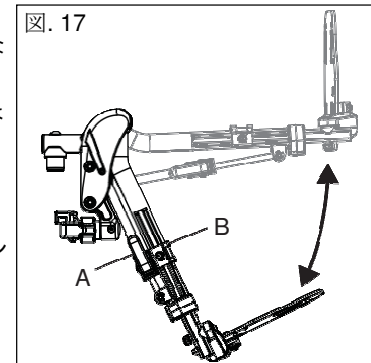


注:レバーロックを押した際に急に下がらないよう、下げる際はPro-ELRを予め車椅子から外すか、支えながら下してください。

注:ふくらはぎパッドは、移乗時に邪魔にならないよう外側にスイングできます。

取り外し

- リリースラッチを押す、もしくは引きます。
- 取り外す前にフットレストを内側や外側へスイングさせ、真上に持ち上げて取り外します。



V. 車椅子のセットアップと使用

L. 小児用Proエレベータリングフットサポート (小児用 Pro-ELR)

取り付け

注: 小児用Pro-ELRは、スイングアウェイハンガーと同じ方法で車椅子に取り付けられます。

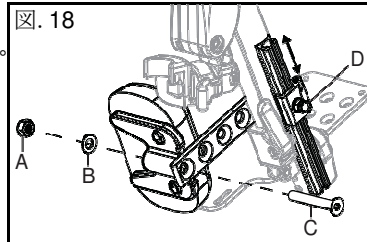
1. フットサポートをフレームの内側もしくは外側に向けて、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。
2. フットレストを、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまで回転させます。

ふくらはぎパッドの高さ調整

1. 10mmのレンチを使用しナット (図18:D) を緩めます。
2. ふくらはぎパッドのアームを任意の高さまで上下にスライドさせ、ナットを締めます。

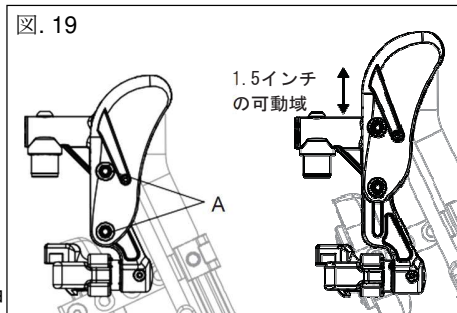
ふくらはぎパッドの奥行調整

1. 5mmの六角レンチと13mmレンチを使用し、ふくらはぎパッドアームのネジ (図18:C)、ナット (図18:A)、ワッシャー (図18:B) を取り外します。
2. 4か所の穴から任意の位置を選び、ネジとナットを取り付けます。



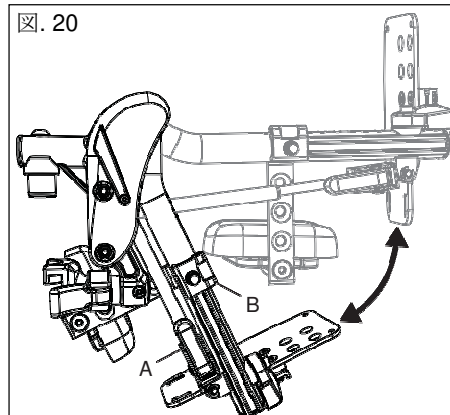
膝の高さ調整

1. 10mmのソケットレンチを2本使用し、カバーの2ヶ所のナット (図19:A) を緩めます。
2. 膝の高さを任意の位置に調整します。
3. 調整後、2ヶ所のナットを締めます (図19:A)。



エレベータリング角度調整

1. 上げる場合、レッグレストチューブ (図20:A) を希望の角度まで持ち上げます。
2. 下げる場合、レバーロック (図20:B) を押し続けレッグレストチューブ (図20:A) を下ろします。



注: レバーロックを押した際に急に下がらないよう、下げる際はPro-ELRを予め車椅子から外すか、支えながら下してください。

注: ふくらはぎパッドは、移乗時に邪魔にならないよう外側にスイングできます。

取り外し

1. リリースラッチを押す、もしくは引きます。
2. 取り外す前にフットレストを内側や外側へスイングさせ、真上に持ち上げて取り外します。

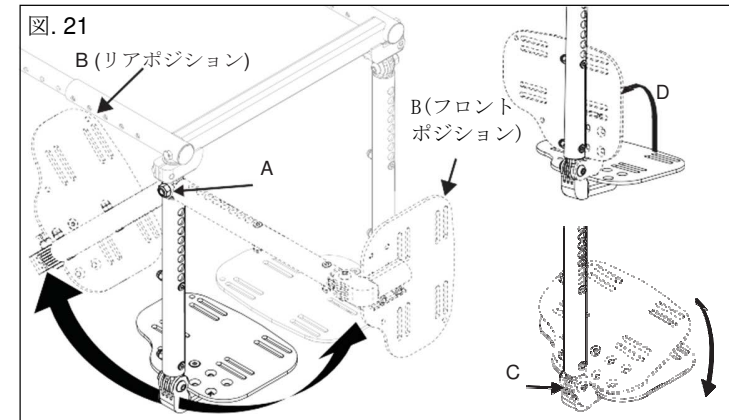
V. 車椅子のセットアップと使用

M. 拘縮用フットサポート

1. フットサポートとフットプレートの角度調整

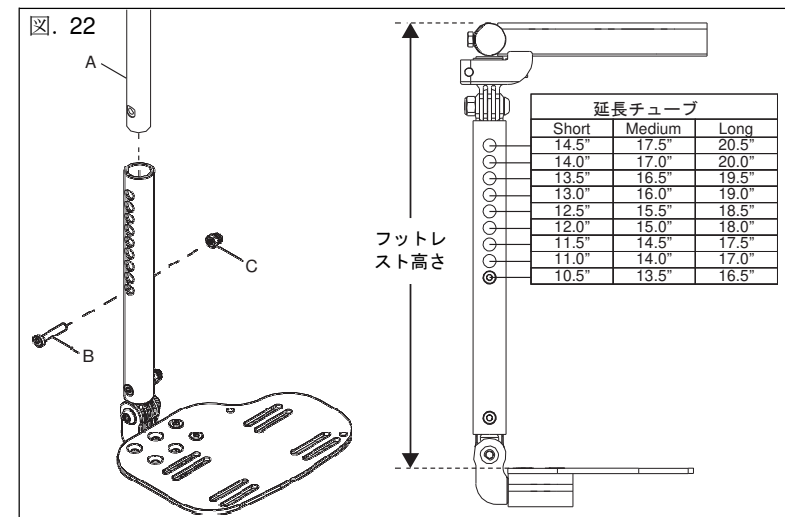
注: 拘縮用フットサポートは、両側マウントの構成で示されています。フットサポートを反対側に動かすことで、センターマウントに変更できます。

- a. 拘縮用フットサポートの角度は、上部のピボット (図21:A) を調整するだけで変更できます。
- b. 拘縮用フットサポートのフットプレートは、前後調整 (図21:B)、角度調整 (図21:C)、移乗の為の跳ね上げ (図21:D) が可能です。



2. フットサポートの高さ調整

- a. 長いピボット (図22:A) からネジ (図22:B) とナット (図22:C) を外し、延長チューブを任意の高さまでスライドさせます。各穴に対応するフットレストの高さについては、図22の表を参照してください。単位はインチになります。

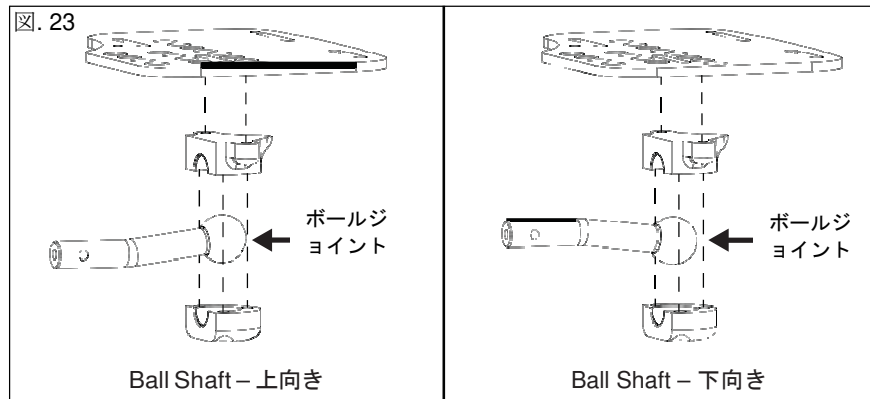


V. 車椅子のセットアップと使用

N. マルチアングルフットプレート

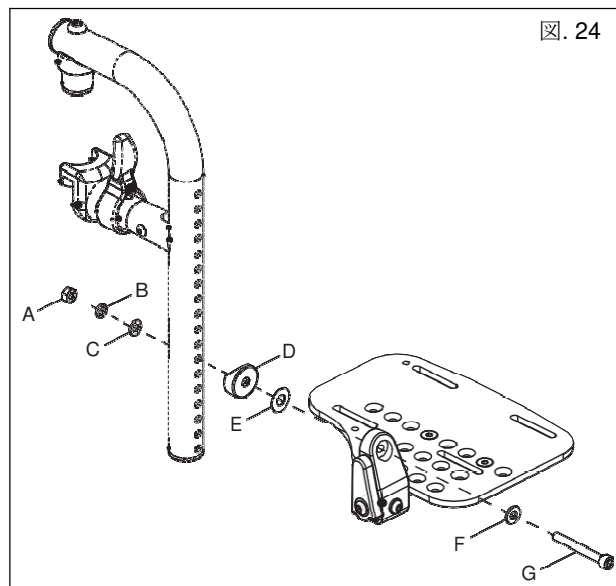
1. 角度変更(図:23)

マルチアングルフットプレートはボールジョイントを採用しているため、様々な角度に設定できます。



2. 高さ変更

- 5mm六角レンチと10mmレンチを使用し、ナット(図24:A)、ワッシャー×2(図24:B)(図24:C)、サドルスペーサー(図24:D)、ワッシャー×2(図24:E)(図24:F)、ネジ(図24:G)を外してフットプレートアッセンブリを取り外します。
- フットプレートアッセンブリを任意の高さに合わせ、最も近い穴にaで取り外したネジ等を元通りに組み付けます。



V. 車椅子のセットアップと使用

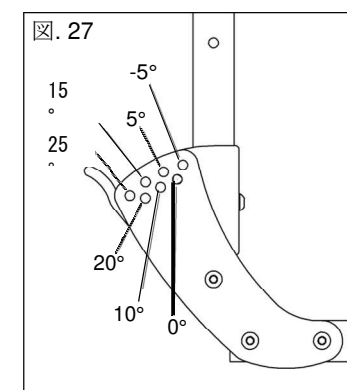
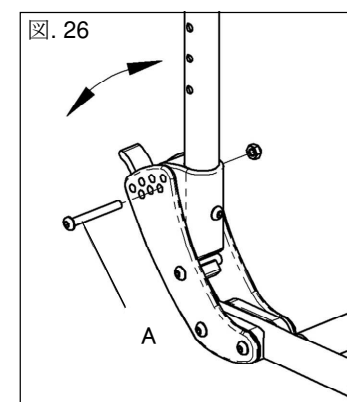
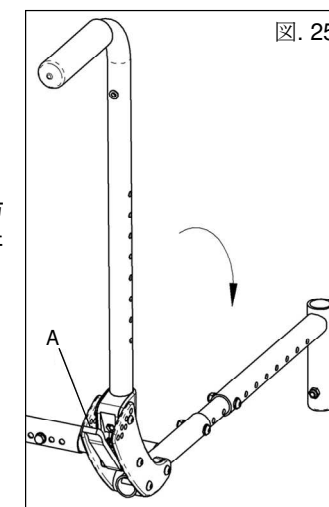
O. バックレスト

1. バックレストの折り畳み

- 折り畳み式バックレストが装着されている場合、レバー(図25:A)を押してラッチを解除します。バックサポートが装着されている場合は、折り畳みに際し左右のラッチを同時に解除する必要があります。
- ラッチレバーを押したまま、バックレストを前方へ倒します。レバーはバックレストが倒れ始めたら離して構いません。

2. 角度調整

- 4mmの六角レンチと10mmのレンチを使用し、ネジ(図26:A)、ワッシャー、ナットを取り外します。
- バックレストを希望の角度に傾けます。角度は5度ずつ変更でき、上段の穴は-5度・5度・15度・25度、下段の穴は0度(垂直)・10度・20度に対応しています(図27)。
- 取り外したネジを取り付け、ワッシャーとナットで締めます。
- 反対側も同様に調整してください。



V. 車椅子のセットアップと使用

O. バックレスト

3. 高さ調整

- 高さ調整式バックレストが装着されている場合、4mmの六角レンチと10mmのレンチを使用し、伸縮式バックレストチューブの左右のネジ(図28:A)を取り外します。
- チューブをスライドさせて任意の高さに調整します。
- 取り外したネジで固定します。

4. ハンドル角度調整

- 高さ調整式バックレストが装着されている場合、ロックヒンジのボタン(図28:B)を左右同時に押します。
- ボタンを押したまま、プッシュハンドルを任意の角度まで回転させます。
- 希望の角度まで回したらボタンを離します。
- ハンドルを引き上げ、ヒンジがロックされていることを確認してください。

5. 取り外し式ストローラーハンドル

- バックレスト左右のボタン(図29:A)を押し下げ、ロックタブを外します。
- ハンドルをレシーバーから引き抜き取り外します。取り付けはレシーバーに差し込みます。左右同時におこなうことを推奨します。
- ボタンがレシーバーにつりつけられていることを確認してください。

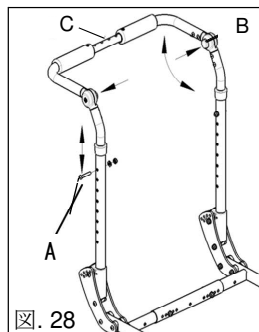


図. 28

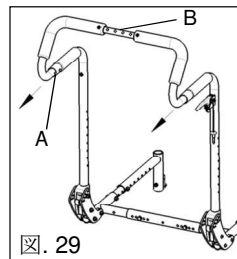


図. 29

⚠ DANGER ⚠

危険: 高さ調整式バックレストのプッシュハンドル結合パイプ(図28:C)や取り外し式ストローラーのプッシュハンドル結合パイプ(図29:B)を持って車椅子を持ち上げたり、傾けたりしないでください。破損や破断が発生し転倒やコントロールの喪失を招き、重傷または死に至る危険性があります。

6. ダイナミックバック

- 車椅子と一緒に提供されるダイナミックバックの説明書を参照してください。

V. 車椅子のセットアップと使用

P. リクライニング式バックレスト

⚠ WARNING ⚠

警告: 背もたれの高さ・角度、座面の奥行、傾斜角度、リクライニング角度、座面の高さ、後輪のサイズ・位置、フロントキャスターのサイズ・位置、および付属品、バックパック、酸素ボンベなどの車椅子後部の重量はすべて車椅子の安定性に関連し、影響を与えます。上記の項目を1つでも調整または変更すると、車椅子の安定性が低下する可能性があります。上記の項目を変更するときは注意してください。背もたれの高さ・角度、座面の奥行、座面の高さ、後輪のサイズ・位置、フロントキャスターのサイズ・位置を調整する場合は、資格のある技術者に相談してください。不適切な調整は、使用者などに重大な傷害を与える可能性があります。

リクライニング式バックレスト操作上の注意

- システムへの調整を行った後、すべての取り付けハードウェアがしっかり締まっていることを確認してください。
- 車椅子が最大にリクライニングした状態で常に安定していることを確認してください。背もたれの角度に応じて、リクライニング角度の最大は85度・75度・65度であり、完全な直立位置を基準にしています。完全な直立位置を0°として測定されます。
- 利用者に最大限の安心・安全を確保するために、バックレストを前または後ろに傾ける前に利用者のポジションが適切であることの確認が重要です。
- 利用者の安全のため、バックレストを前または後ろに傾ける際は必ずホイールロックを掛けてください。
- 使用中に車椅子が不安定にならないよう、リクライニング式バックレストの使用前には転倒防止装置が適切に調整されていることを確認してください。詳しくは、本書45ページ転倒防止装置をご覧ください。

⚠ DANGER ⚠

危険: 車椅子のチルトやリクライニングをおこなうと、車椅子から落下する危険性が大幅に高まり、重傷または死に至る可能性があります。

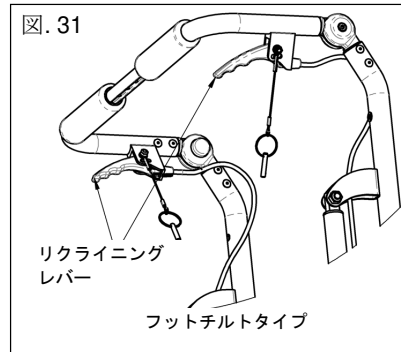
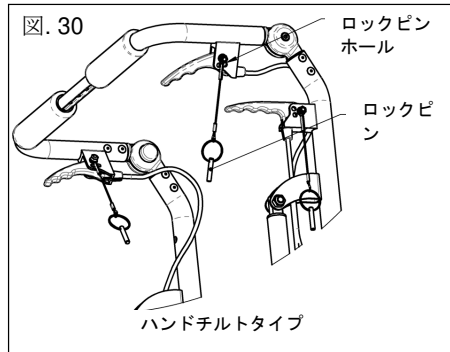
V. 車椅子のセットアップと使用

P. リクライニング式バックレスト

使用説明書:

後傾/前傾

1. 前傾または後傾させる前に、左右リクライニングレバーのロックピンホールからロックピンを取り外し、システムのロックを解除します(図30)。
2. ホイールロックがかかっており、車椅子が平らな場所にあることを確認します。
3. ハンドルをしっかりと握り、両方のリクライニングレバー(図31)をゆっくりと同時に握り、ガスシリンダーを解放します。これにより、次のように背もたれの角度を調整できます。
 - a. 後傾—ガスプリングに下向きの力を加えることで、バックレストの角度を開くことができます。
 - b. 前傾—バックレストに上向きの力を加え、角度を戻します。
4. バックレストを任意のリクライニング角度に調整したら、左右のリクライニングレバーをゆっくりと放します。
5. システムをロックするには、ロックピンをロックピンホールに挿入します(図30)。利用者のポジショニングが完了したら、左右のリクライニングレバーを常にロックしておくことをお勧めします。



V. 車椅子のセットアップと使用

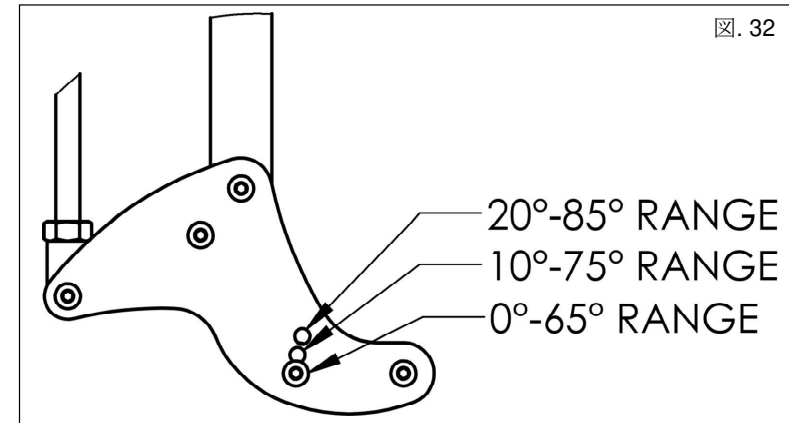
P. リクライニング式バックレスト

リクライニング式バックレストプレートの角度調整



警告: 使用者が車椅子に乗った状態でこの調整を実施しないでください。重傷または死に至る可能性があります。

1. リクライニング式バックレストは、3パターンの背角度の調整ができます。各パターンのリクライニング角度について、予め図32を参照してください。
2. 4mm六角レンチと10mmレンチを使用し、ワッシャーとナット付きのネジ(図32)を取り外します。
3. バックレストを希望の角度に合わせます。どの穴も65度の範囲で調整できます(図32)。
4. 穴にネジを通し、しっかりと固定されるまでワッシャーとナットで締めます。
5. 反対側も同様に実施してください。



V. 車椅子のセットアップと使用

Q. チルトメカニズム

1. ハンドレバーチルト

a. チルト操作

- レバー(図33:A)を握ります。
- レバーを握ったまま、シートフレームを任意の角度に回転させます。
- レバーを離し、ロックさせます。

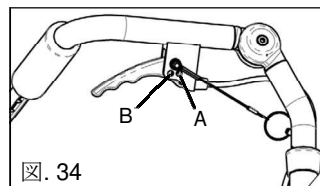
b. ケーブル調整

- 10mmおよび3/8インチのスパナを使用して、ジャムナット(図33:B)をケーブルアジャスター本体(図33:C)から緩めます。
- ケーブルアジャスター(図33:D)をケーブルのたるみがなくなるまで、もしくは車椅子の回転フレームの溝にチルトロックの歯が完全に収まる状態になるよう調整します。
- ケーブルの機能をチェックします。チルト機構は全ての溝でロックできる必要があります。歯がどの位置でも引きずらないようにしてください。歯が引きずる場合、もしくはレバーにどの遊びがある場合、ケーブルアジャスターをさらに緩めてください。歯が溝から完全に外れている場合は、ケーブルアジャスターを締め込んでください。
- ケーブルを調整し、機能を確認したら、ケーブルアジャスターやアジャスター本体ではなく、ジャムナットのみを締めてロックします。

c. レバーの固定

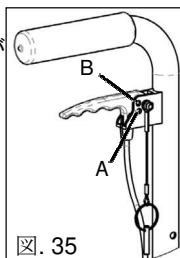
i. レバーをロック位置で固定するには

- 図34、図35を確認し、車椅子にどのタイプのバックケインとレバーが装着されているかをチェックします。
- バックハンドルを押して、車椅子がロックされていることを確認します。
- 紐でレバーに取り付けられたピンを1番の穴に差しします。
- レバーを軽く握ってバックレストを押し、チルトロックが解除されないことを確認します。



ii. レバーをロック解除位置で固定するには

- 図34、図35を確認し、車椅子にどのタイプのバックケインとレバーが装着されているかをチェックします。
- レバーを握ってチルト機構のロックを解除し、バックケインを持ち、チルトの角度をコントロールします。
- 安定する角度までシートフレームを傾けます。
- 紐でレバーに取り付けられたピンを2番の穴に差しします(図34:AおよびB)。



注: この機能は、本書36ページ「Center of

Gravity(重心)の最適化」で説明されている重心の調整のみを目的としています。



警告: レバーがロック解除位置に固定された状態で、車椅子の使用者を放置しないでください。使用者に重大な傷害を与える可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

Q. チルトメカニズム

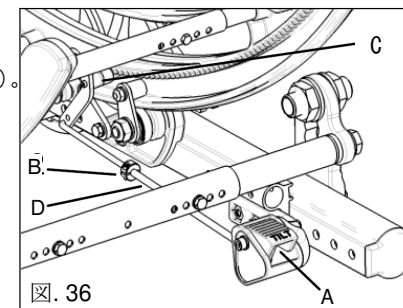
2. フットチルト

a. チルト操作

- フットチルトペダルを踏みます(図36:A)。
- ペダルを踏み込んだまま、シートフレームを目的の角度まで回転させます。
- ペダルを離し、ロックさせます。

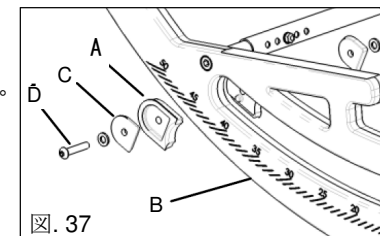
b. リンケージ調整

- 3mm六角レンチを使用し、カラーのネジを緩めロックカラー(図36:B)を緩めます。
- 歯(図36:C)が回転フレームの溝に完全にかみ合っており、チルトペダルがある場合解除し、チューブの端にロックカラーを再配置し(図36:D)、クランプネジを締めます。



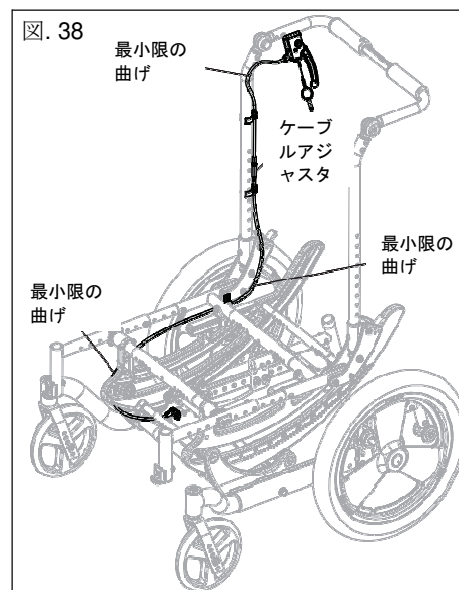
3. チルトストップ

- チルトストップパッド(図7:A)を両側の回転フレーム(図37:B)の希望の位置に配置します。パッドは一緒に入れ子にする必要があります。
- スラストプレート(図37:C)をパッドのポケットに入れます。
- ネジ(図37:D)を挿入し、ナットとワッシャーで締め希望の位置にロックします。
- 位置を変更するには、チルトストッパーを取り外し、上記の指示に従い新しい位置に組み立て直してください。



注: ケーブル作動機構には定期的なメンテナンスが必要です(図38を参照)。ケーブルが以下であることを確認してください。

- ・適切に調整されているか。
- ・経路が正しく設定されているか。
- ・ケーブルの曲がりを最小限に抑え、摩擦を減らしているか。
- ・ねじれがあるか、調整できない場合は、ケーブルを交換してください。



V. 車椅子のセットアップと使用

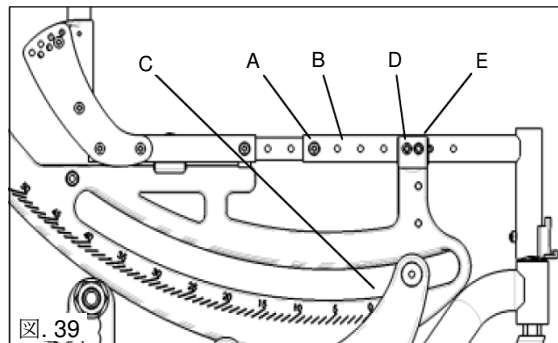
R. シートフレームのセットアップ

1. 座奥行の設定

- 5mm六角レンチと13mmレンチを使用し、シートパンから奥行調整ネジを取り外すか、シートパンを取り外します(P47「シートパン」参照)。
- 4mm六角レンチと10mmレンチを使用し、車椅子両側のフロントシートフレーム(図39:B)からナットとワッシャー付きのネジ(図39:E)を取り外します。
- 必要に応じて後ろ側のシートフレームを前後にスライドし、座奥行を設定します。
- 座奥行が決まったら、前側のシートフレームの最後部の穴にネジを挿入し、固定します。

2. Center of Gravity(重心)の最適化

- バックパックなど、車椅子使用時に実際に取り付けられる全ての機器を搭載し、利用者也座ります。
- ホイールロックをかけます。
- ハンドレバーチルトの場合、P35「レバーをロック解除位置で固定するには」を参照しチルトをロック解除状態で固定します。フットチルトの場合、踏み続けるか結束バンド等でペダルがロック解除になるよう固定してください。
- 回転フレームの静止角度を探します。プッシュハンドルにわずかに揺動運動をかけ、休憩場所の中心がどこにあるかを探ってください。
- 回転フレームの側面の角度目盛でチルト角を確認します。角度は、ベアリングプレートの後端で示されます(図39:C)。最適なパフォーマンスを得るための静止角度は17~23°です。この範囲外にある場合は、5mmの六角レンチを使用しシートフレーム位置固定ネジ(図39:D)を取り外します。
- 静止角度が23°より大きい場合、約20°の静止角度が得られるまで、シートフレームを車椅子の前方に引きます。静止角度が17°より小さい角度で静止している場合、約20°になるまでシートフレームを後方に押します。
- 利用者によって細かくは異なりますが、適切な出発点は角度が20°から5°ずれていくごとにシートフレームを0.5インチ動かすことです。
- 最適な位置に達したら、その位置に最も近い穴にシートフレーム位置固定ネジを再取り付けつけて締めます。ネジは、シートフレームサドルの前後いずれかの穴に取り付けできます(図39:E)。

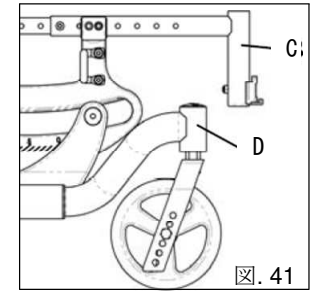
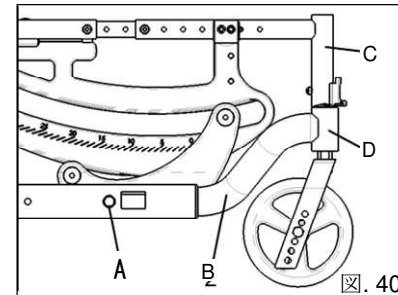


V. 車椅子のセットアップと使用

S. キャスター

1. キャスターアームの位置調整

- 13mmレンチを使用し、8mm六角ボルトを取り外します(図40:A)。
- キャスターアーム(図40:B)を希望の位置にスライドさせ、キャスターアームの穴をベースフレームの穴に合わせます。
- 六角穴付きボルトを再度取り付けして下さい。ボルトのナットは、ベースフレームの内側のポケットに収められています。
- 両側が同じ位置にあることを確認してください。
- フットサポートのハンガーの背面とレシーバーチューブ(図40:Cおよび図41:C)は、図41に示すようにキャスターステムチューブ(図40:Dおよび図41:D)の前面を超えて配置しないでください。その場合、図40に示す位置になるまで手順A~Dを実行します。



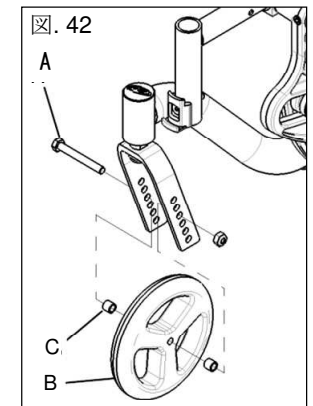
注:ハンガーレシーバーはキャスターステムチューブの後ろに配置される場合があります。



危険:上記の指示に従わない場合、使用中に車椅子が前方へ倒れ、転倒や制御の喪失を招き、重傷または死に至る可能性があります。

2. キャスターの高さ調整

- 13mmレンチを使用して六角ボルト(図42:A)とナットを取り外し、キャスターホイール(図42:B)とスペーサー(図42:C)を取り外します。
- 六角ボルトをキャスターフォークの希望する穴の片側に通し、1つ目のスペーサーをボルトに通します。
- キャスターホイールの軸にボルトを通し、ボルトの先端はキャスターホイールの反対側のベアリングから通らない位置に合わせます。
- 2つ目のスペーサーをキャスターホイールとキャスターフォークの間にスライドさせ、スペーサーをベアリングの穴に合わせます。
- スペーサーを介して六角ボルトをキャスターフォークの反対側の穴に通し、六角ボルトをナットで締め直します。
- 反対側も同様に実施し、左右の設定が同じか確認してください。



V. 車椅子のセットアップと使用

T. アクスルプレート

1. アクスルプレート位置調整

- 13mmレンチを2本使用し、車椅子のアクスルプレートネジ(図43:A)を左右ともに取り外します。転倒防止レシーバーの向きに注意してください(図43:B)。
- アクスルプレート(図43:C)を希望の位置まで左右同時に前後にスライドさせます。
- アクスルプレートネジを締めます。
- フットチルトが装備されている場合、チルトロックリンケージを再調整する必要があります(P36「リンケージ調整」を参照)。
- 左右のアクスルプレートがベースフレームの同じ場所にあることを確認します。

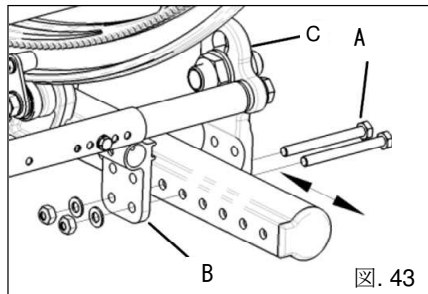


図. 43

⚠ DANGER ⚠

危険:アクスルプレートを前方に調節しすぎると、車椅子が後方へ倒れ、転倒や制御の喪失を招き、重傷または死に至る可能性があります。

⚠ WARNING ⚠

警告:背もたれの角度を大きくすると、車椅子の重心が変わります。車椅子の安定性を維持するために、車軸の位置が適切に調整されていることを確認してください。 ページ上部のアクスルプレートの位置と図43の参照。

V. 車椅子のセットアップと使用

T. アクスルプレート

2. アクスルスリーブの高さ調整

- 後輪を取り外します。
- 30mmレンチを2本使用し、アクスルプレートの外側からアクスルスリーブナット(図44:A)とワッシャー(図44:B)を取り外します。
- アクスルスリーブ(図44:C)をアクスルプレートから取り外し、希望の高さに再配置します。
- アクスルスリーブナットを取り付け、締めます。
- さらに、アクスルプレートのネジを取り外し(手順1を参照)、アクスルプレートの別の穴を使用して、アクスルプレートを1インチ(2.54cm)上下に動かすことができます(図44:D)。所定のアクスルスリーブ位置の上部の穴(図44:E)を使用する場合よりも1インチ(2.54cm)低いシート高が得られます。アクスルプレートを上下に動かす場合、転倒防止レシーバー(図44:F)がアクスルプレートとともに(それぞれ)上下に動くことを確認してください。転倒防止レシーバーの4つの穴はすべて、アクスルプレートの4つの穴すべてと一致する必要があります。転倒防止レシーバーの向きの詳細については、セクションVを参照してください。
- 左右のアクスルスリーブとアクスルプレートがそれぞれ同一に設定されていることを確認してください。

3. 車軸間隔の調整

- 30mmレンチを2本使用し、アクスルスリーブナット(図44:A)を緩めます。
- アクスルスリーブ(図44:C)をナットにねじ込む、もしくは緩め、希望のホイール間隔を確保します。
- アクスルスリーブナットを締め直します。
- 車軸の間隔が左右で同じであることを確認してください。
- 車軸の間隔を変更すると、ホイールロックのインまたはアウトの間隔が必要になる場合があります(P43参照)。

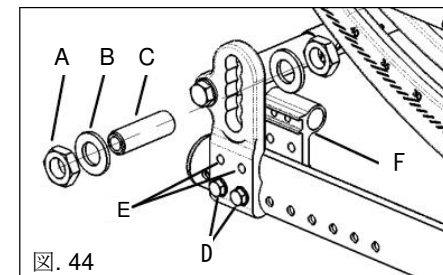


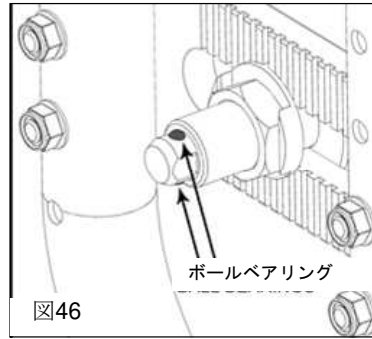
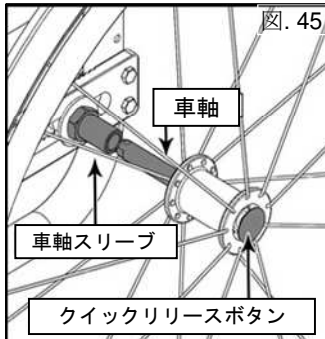
図. 44

V. 車椅子のセットアップと使用

U. リアホイール

1. ホイールの取付け

- 車軸のクイックリリースボタンを押して、ロックボールを格納します。アクスルリリースボタンの伸長位置と押し下げ位置の違いと、車軸のもう一方の端のロックボールへの影響に注意してください(図45)。
- 車軸が分離している場合は、車軸をホイールのベアリングハウジングに挿入します。
- 再度クイックリリースボタンを押して、車軸をアクスルスリーブに挿入します(図45)。
- ボタンを放し、車軸をスリーブにロックします。リリースボタンが完全に伸びず、ボタンを離れた後にロッキングボールがロック位置に移動しない場合、軸の長さを調整する必要があります(図46)。



2. 車軸調整

- 車軸調整には、外側のアクスルナットを回すための19mmレンチが必要です。
- また、車軸の反対側の端のボールベアリングを保持し、車軸の回転を防ぐために11mmレンチが必要です。
- ホイールを取り付けた際に車軸がロックされない場合は、ロックされるまでアクスルナットを緩め、ロックすると車軸がわずかに出入りできるようにします。車軸がロックされ、わずかに出入りする場合は、次の手順に進みます。
- アクスルナットをきつくなるまで反時計回りに回し、アクスルナットを時計回りに一度に1/3回転させます。1/3回転させるたびに適切に調整されているかどうかを確認してください。適切に調整すると、スリーブ内での車軸の知覚可能な動きはありませんが、クイックリリースボタンはスムーズに押し込むことができます。

3. ホイールの取り外し

- ホイールをハブの近くで保持し、車軸の外側の端にあるクイックリリースボタンを押します。
- ボタンを押したまま、ホイールをアクスルスリーブから引き抜きます。



危険: 車椅子を操作する前に、プッシュボタンが完全に戻り、車椅子の内側のロックボールが完全にかみ合っていることを確認してください。さもないと、ホイールの脱落を招き、重傷または死に至る可能性があります。

車軸調整前には、P41後輪の取り付けと取り外しを確認して理解してください。

V. 車椅子のセットアップと使用

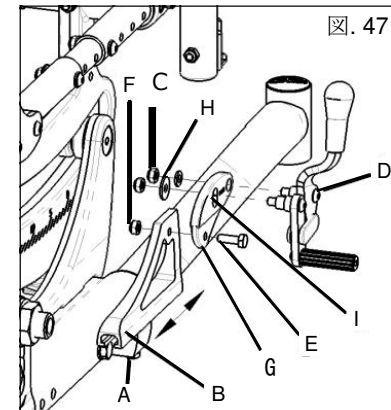
V. ホイールロック

1. ホイールロックの調整

- 10mmのレンチまたはソケットを使用し、ベースフレームの取り付けブロックの下にある六角ボルト(図47:A)を緩めます(外さないでください)。
- 適切なロックがかかる位置にマウントプレート(図47:B)を前後にスライドさせます。
- 六角ボルトを締め直します。

2. ホイールロックマウントの反転

- 10mmレンチを使用し、ホイールロックスタッドからナット(図47:C)を取り外し、ホイールロックメカニズム(図47:D)を取り外します。
- 10mmレンチを使用し、六角ボルト(図47:E)とナット(図47:F)を取り外します。
- ホイールロックマウント(図47:G)を前後に反転させます。
- 六角ボルト(図47:E)とナット(図47:F)を取り付けて締めます。
- ホイールロック機構(図47:D)を再び取り付け、ナットで固定します(図47:C)。大口径ワッシャー(図47:H)は、スカラップ穴(図47:I)を覆うナットの下にあることに注意してください。ホイールロック機構のフロントスタッドがリアスタッドの下に位置するように、常にスカラップ穴を使用してホイールロックを取り付けてください。ホイールロック機構は、スカラップ穴の上部穴にあります。単一の穴が椅子の後ろにある場合は、スカラップ穴の下部の穴にホイールロック機構のフロントスタッドを配置します。
- 介助者用フットブレーキが装備されている車椅子のホイールサイズを変更する場合は、新しいリンクエジロッドを入手する必要があります。(株)ユーキ・トレーディングまたは販売店に連絡して注文してください。

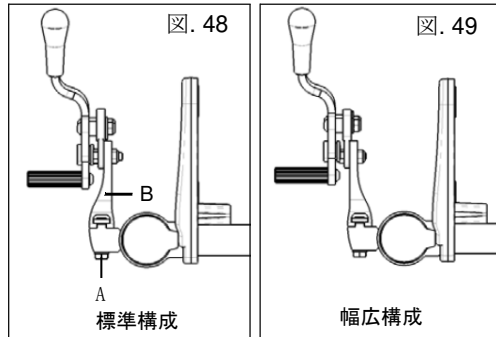


V. 車椅子のセットアップと使用

V. ホイールロック

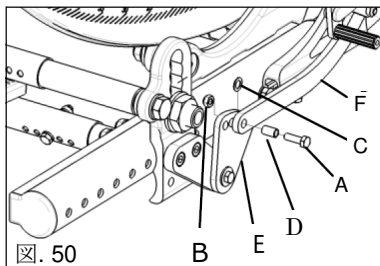
3. ホイールロックマウントプレートの逆転

- 前ページのステップ2:Aおよび2:Bに従い、ホイールロックマウントを取り外します。
- 10mmレンチを使用六角ボルト(図48:A)を緩め、ホイールロックマウントプレート(図48:B)をベースフレーム取り付けブロックから外します。反対側も同様に実施します。
- ホイールロックマウントプレートの横方向のオフセットに注意してください。車椅子の車軸間隔に最適なホイールロックマウントプレートの取り付け構成を選択します。標準または幅広構成(図49)へは、ホイールロックマウントプレートを車椅子の反対側に着け替えることで切り替えができます。フットブレーキまたは前後支柱アームサポートの場合、常に幅広構成に設定する必要があります。



- 幅の構成を選択したら、ホイールロックマウントプレートをマウントブロックに戻し、Tナットのインデックスをマウンティングプレートのスロットに戻します。六角ボルトはまだ締めないでください。
 - 前ページのステップ2:cおよび2:eに従い、ホイールロックマウントを適切な構成で取り付け直します。
 - ホイールロックマウントプレートを適切位置設定し、六角ナットを締めます。
- #### 4. フットブレーキペダルの角度調整 (介助用フットブレーキのみ)

- U 10mmレンチを使用し、六角ボルト(図50:A)、ナット(図50:B)、プラスチックワッシャー(図50:C)、ブッシュ(図50:D)を、車椅子の両側にあるホイールロックインデックスプレート(図50:E)とリンクエッジロッドから取り外します。
- ハードウェアを取り付ける穴を、好みに応じて選択します。
- プラスチックワッシャー(図50:C)がインデックスプレート(図50:E)とリンクロッド(図50:C)の間に取り付けられていることを確認し、締め直します。六角ボルトの頭は車椅子の外側に向くよう取り付けてください。



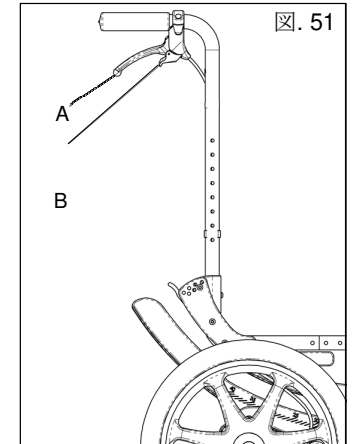
注: ハードウェアを緩める/締める際は2本のボルトを交互に緩め/締めます。これによりハードウェア1セットでのオーバークランプが防止され、留め具の結合や外し難さが増します。

V. 車椅子のセットアップと使用

W. ドラムブレーキ

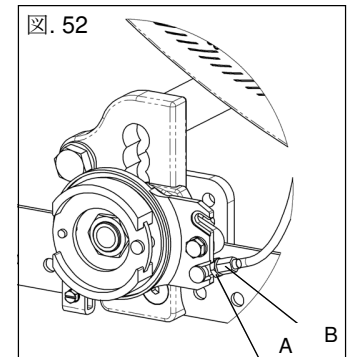
1. ブレーキ操作

- 車椅子の両側にあるブレーキレバー(図51:A)を握るとブレーキが作動します。左右独立して作動し、握る力の強弱でブレーキの利き具合を調節します。
- ブレーキレバーを離すとブレーキが解除されます。
- パーキングブレーキ機能を使用するには、各ブレーキレバーを握り、引き金を握った状態で、人差し指でロックレバー(図51:B)をレバーマウントの歯に押し込みます。ロックレバーが押し込まれている間、リリースブレーキハンドルとパーキングブレーキは作動したままです。
- パーキングブレーキを解除するには、バネ式ロックレバーがカチッと音がするまでブレーキレバーを握ります。ブレーキを解除するには、ブレーキレバーを放します。



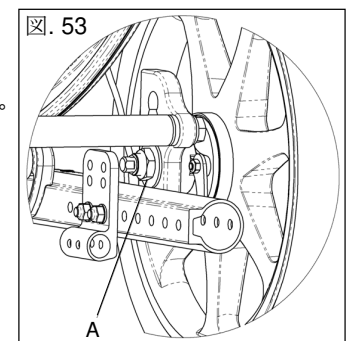
2. ブレーキ調整

- 10mmレンチを使用し、アジャスター(図52:B)のジャムナット(図52:A)を緩めます。ブレーキの効きを強めるにはアジャスターを緩め、弱めるにはアジャスターを締め込みます。
- ホイールを回した際にわずかに抵抗が生じるまで、ブレーキを調整することをお勧めします。次に、回転時の抵抗を取り除くためにアジャスターを約1/2回転締め込みます。
- ジャムナットを締め直し、固定します。反対側も同様に実施してください。



3. アクスルスリーブの位置調整

- ホイールを両側とも外します。24mmレンチを使用し、アクスルスリーブナット(図53:A)とワッシャーを取り外します。反対側も同様に実施します。
- 左右ブレーキアセンブリを目的の位置へ動かします。
- aで外したワッシャーとナットを取り付け締めます。
- アクスルスリーブの位置を変更した場合、ブレーキケーブル調整が必要となることがあります。
- キャストホイールの位置も同じだけ調整する必要があります。シートフレームが0°のとき、前座高と後座高の差が1/4インチ(6.3mm)以内になるよう必要に応じてキャストやアクスルスリーブを調整します。



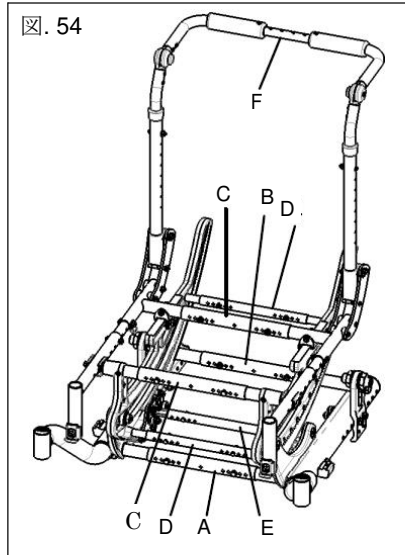
注: ドラムブレーキ装着車の場合、アクスルスリーブの間隔は調整できません。

V. 車椅子のセットアップと使用

X. フレーム幅

1. フレーム幅の調整

- バックレストを取り外し、フレームの状態にします。
- シートパンが装着されている場合、取り外して新しい幅に設定します (P47Z参照)。
- 全てのクロスストラットの延長チューブのネジを外します。
ベースフレーム (図54:A)、アクスルプレート (図54:B)、シートフレーム (図54:C)、ロータリーフレーム (図54:D)、チルトロックメカニズム (図54:E)、角度調整式プッシュハンドルもしくは取り外し式ベビーカーハンドル (図54:F) (装備されている場合)。
A~Cのネジには10mmレンチが2本、D~Eのネジには8mmレンチが2本、Fのネジには4mmの六角レンチがそれぞれ必要です。
- 車椅子を希望の幅に設定し、延長チューブと支柱の穴を合わせます。
- 外したネジを取り付けます。このとき、まだ締め込まないようにしてください。
- 車椅子に車輪を取り付け平らな面に置きます。すべての延長チューブが椅子の中央になるよう配置されていることを確認します (プッシュハンドルもしくは取り外し式ベビーカーハンドルは、車椅子の幅が奇数インチの場合、 $\frac{1}{2}$ インチオフセットされます)。
- 全てのネジを締め直し、チルトが簡単にかかるか確認してください。
- チルト時に引っ掛かり等があった場合、ベースフレームと回転フレームのアクスルプレートを緩め、回転フレームを2~4回チルトさせて引っ掛かりが解消されたら、最後に回転フレームの支柱になるよう留め具を締め直します。



V. 車椅子のセットアップと使用

Y. 転倒防止装置

1. 転倒防止装置の振り上げ

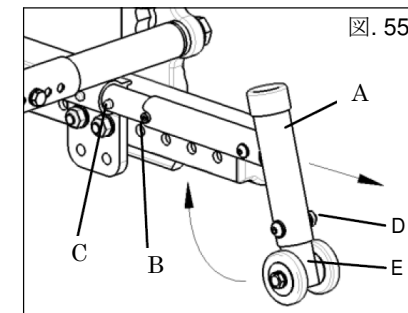
- 転倒防止装置 (図55:A) を後方に引き、回転ロックスタッド (図55:B) を外します。
- 転倒防止装置を上向きに回転させます。
- 回転ロックスタッドがアライメントスロットに入れ子になるように転倒防止装置を戻します。

2. 転倒防止装置の取り外し

- 転倒防止装置のボタン (図55:C) を押します。
- 転倒防止装置をレシーバーからまっすぐ引き抜き取り外します。
- 再度取り付けるには、ボタンを押してレシーバーに転倒防止装置を差し込み、レシーバーの穴からボタンが飛び出るように合わせます。

3. 高さ調整

- 4mmの六角レンチと10mmのレンチを使用し、ハイトアジャスター (図55:E) からクロスボルト (図55:D) を取り外します。
- ハイトアジャスターを必要に応じて上下にスライドさせ、アジャスターの穴と本体の穴を合わせます。転倒防止ホイールの底面と床の間の距離は、1.5~2インチ (3.81~5.08cm) になるよう設定してください。
- クロスボルトを取り付けて締め込みます。
- 反対側も同様に実施し、両側の転倒防止装置が確実に設定されていることを確認してください。



V. 車椅子のセットアップと使用

Z. シートパン

1. 取り外し

- 5mm六角レンチを使用し、シートパンの角のボタンヘッドネジ(図56:A)を取り外します。
- シートチューブからシートパンアセンブリ(図56:B)、シートパンブラケット(図56:C)、シートパンクランプ(図56:D)、およびナット(図56:E)を取り外します。

2. 取り付け

- シートパンをシートフレームにセットします。
- シートパンブラケット(図56:C)をシートチューブにスライドさせ、シートパンクランプ(図56:D)とブラケットを噛み合わせシートチューブに巻き付けます。ナット(図56:E)を図のようにクランプのスロットに保持し、ボタンヘッドネジ(図56:A)をシートパン越しにクランプに通してねじ込みます。シートパンからクランプに通します。まだ完全に締めないでください。シートパンの4つの角すべてについて繰り返します。
- シートパンが車椅子と直角になり、前端が垂直フットレストハンガーチューブの約3/8インチ後ろになるよう調整します。
- 適切に調整後、4つのボタンヘッドネジを全て締め込みます。

3. 長さ調整

- 5mm六角レンチと13mmレンチを使用し、シートパンの中央部4つのボタンヘッドネジ(図56:F)をすべて取り外します。
- 同じく5mm六角レンチを使用し、角に配置された4つのボタンヘッドネジ(図56:A)をシートパンクランプ(図56:D)からすべて緩めます。
- シートパンを前後にスライドさせ、適切な穴を合わせて、希望するシートパンの長さに合わせます。
- ナットでボタンヘッドネジ(図56:F)を取り付け、締め込みます。
- 必要に応じてシートフレームのシートパンの位置を変更し、クランプのボタンヘッドネジ(図56:A)を締めます。

4. 幅調整

注:シートパンの幅は、幅が偶数(インチ)の場合最大2インチ(5.08 cm)広く、幅が奇数(インチ)の場合1インチ(2.54 cm)広く調整できます。これ以上の調整には、新しいシートパンが必要になります。Ki Mobilityカスタマーサービスにお問い合わせください。

- シートパンを取り外し、椅子の幅を希望の幅に調整します(P45セクションXを参照)。
- 広げたフレーム幅に応じて、シートパンクランプの穴をシートパンの必要な穴のセットに合わせます。
- シートパンクランプにボタンヘッドネジとナットを取り付け、締め込みます。

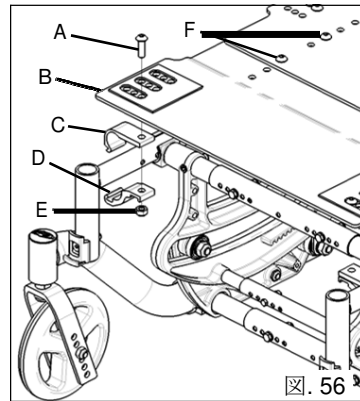


図. 56

V. 車椅子のセットアップと使用

AA. ベ어링

- ベ어링交換(この作業は資格のある技術者がおこなうことを推奨します)

- 17mmレンチと6mm六角レンチを使用し、4つのベ어링ロックナットすべてを緩め、取り外します(図57:A)。
- ベ어링サブアセンブリから平頭ネジ(図57:BおよびC)を取り外します。
- すべてのベ어링アセンブリコンポーネントを車椅子から取り外します。
- 新しいベ어링/ライナー(図57:D)を使用して、ベ어링シャフト(図57:E)を図のように1つのベ어링/ライナーサブアセンブリに通します。
- 回転フレームの外側からスロットにベ어링/ライナー付きのシャフトを配置し、スペーサー(図57:F)とシャフト上の2番目のベ어링/ライナーをスライドさせます。ベ어링ライナーの「ノーズ」は互いに向かい合っている必要があります。
- ベ어링シャフトの穴をベースフレームのフロントベ어링プレート(図57:G)の穴に合わせ(図57:G)、10mm x 50mm(図57:B)の平頭ネジをシャフトに通します。
- ワッシャー(図57:H)とロックナット(図57:A)を平頭ネジに戻し、指で締めます。
- 車椅子の反対側もステップd~gを実施します。
- 上記のステップeのように、スペーサー(図57:F)を2つのベ어링の間に挟み、穴にベ어링シャフトを挿入します。
- 図のように、後部ベ어링プレート(図57:I)の穴を介して10mm x 60mm(図57:C)の平頭ネジにスライドします。車椅子の反対側も同様に実施します。
- 両方のセットのベ어링に回転フレームをセットし、回転フレームの底部の隆起をベ어링ライナー間の溝に入れます。フランジをベ어링に向けてスイベルブッシング(図57:J)を取り付け、回転フレームの内側の溝に入れ子式ベ어링を入れ子にしたスイベルブッシングにスイベルプレート(図57:K)をスライドさせます。ワッシャー(図57:E)とロックナット(図57:A)で固定します。椅子の反対側についても繰り返します。

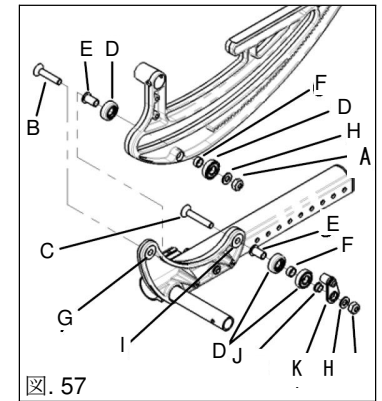


図. 57

V. 車椅子のセットアップと使用

BB. 医療機器搭載台およびバッテリーホルダー

1. 使用説明書:

認定された販売店に問い合わせ、医療機器搭載台およびバッテリーホルダーが、それらに固定されているデバイスに適していることを確認してください。

医療機器搭載台およびバッテリーホルダーの調整は、認定された販売店のみが行ってください。

2. トランジットの使用手順:

この車椅子を自動車の座席として使用する場合、医療機器搭載台およびバッテリーホルダーに取り付けられているアイテムをすべて取り外して、適切に個別に固定する必要があります。医療機器搭載台およびバッテリーホルダーのコンポーネントの取り付け、取り外し、または調整は、認定ディーラーのみが行ってください。



危険: 医療機器搭載台およびバッテリーホルダーに取り付けられたアイテムを取り外し、自動車に適切に固定しない場合、事故の際にこれらのアイテムが危険な発射物になり、重傷または死亡につながる可能性があります。

CC. 酸素ボンベホルダー

1. 使用説明書:

この酸素ボンベホルダーは、車椅子にDシリンダーを固定するように設計されています。ボトルがホルダーの底部にしっかりと固定され、シリンダーが引き出せないようにクランプが締められていることを確認してください。

酸素ボンベは危険な場合があります。ボンベのプロバイダーによる使用に関するすべての指示に従ってください。



危険: これらの指示およびボンベのプロバイダーによる使用に関する指示に従わない場合、重傷または死につながる恐れがあります。

V. 車椅子のセットアップと使用

DD. キャンopies

1. 折り畳み (図67)

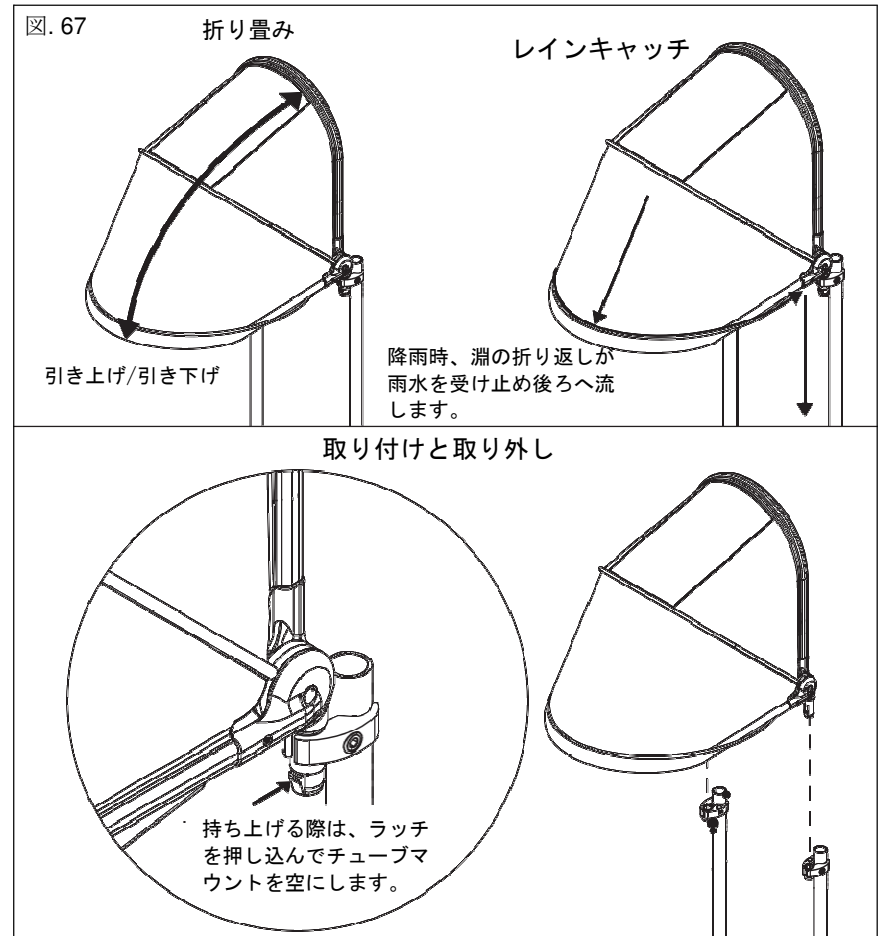
- クローズ - キャンopiesの前端を持ち上げ、後ろ端までキャンopiesを邪魔にならないように折ります。
- オープン - フロントエンドを持ち、キャンopiesが完全に開くまで引き出します。

2. 取り付けと取り外し (図67)

- キャンopiesの両側のラッチを押し込み、引き上げてレシーバーから取り外します。
- キャンopiesを再び取り付けるには、ラッチがチューブマウントクランプの底部に引っかかるまでレシーバーに両端を取り付け、所定の位置に「ロック」します。

3. レインキャッチ (図67)

- キャンopiesの端は折り畳まれており、雨をキャッチしユーザーにかかりにくい構造です。



VI. メンテナンス

A. 車椅子の点検

日常的かつ定期的なメンテナンスにより、車椅子の寿命が延び、パフォーマンスが向上します。車椅子の修理と部品の交換は、販売店または資格のある技術者が行う必要があります。

1. 一般検査:

- 少なくとも月に一度は椅子を掃除してください。職場などの汚れた環境で操作する場合は、椅子をより頻繁に掃除する必要があります。
- すべての留め具が締まっていることを確認してください。特に明記されていない限り、締め付けトルクは40インチ/ポンド(4.52 N * m)です。
- タイヤとキャスターの点検:
 - タイヤのトレッド摩耗を確認します。タイヤにフラットスポット、目に見える亀裂がある場合、またはトレッドが摩耗している場合は、タイヤを交換します。
 - バルブステム付きのエアータイヤを使用している場合は、空気圧を確認し、タイヤのサイドウォールに記載されている圧力に設定します。



DANGER

危険: 摩耗したタイヤは交換してください。タイヤのサイドウォールに表示される空気圧を維持できない場合、ホイールロックが適切にグリップしません。これにより、転倒または制御不能に陥り、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。

- スポークホイールが緩んでいないか確認します。
- ホイールロックを確認します。タイヤが摩耗すると、ホイールロックを調整する必要があります。セクションV. ホイールロックを参照してください。

VI. メンテナンス

B. 定期メンテナンス

1. 毎週:

- ホイールロックをチェックし、正しく調整されていることを確認します。
- 車軸スリーブをチェックし、車軸スリーブのナットが締まっていることを確認します。
- スポークに破損、曲がり、緩みがないか確認します。
- キャスターが自由に回転することを確認します。
- タイヤとキャスターの摩耗を点検します。
- エアータイヤが適切に膨張しているか確認します。
- 湿った布で回転フレームの滑走面を拭きます。
- チルトケーブルを調整して、適切なチルトロック機能を確認します(セクションV、パートQステップ1:Bまたは2:Bを参照)。
- ローラーベアリングを点検して、適切な機能と摩耗状況を確認します。
- ハンドグリップが回転したり、外れたりしないようにしてください。

2. 毎月:

- 後輪の車軸を点検し、必要に応じて締めます。
- キャスターハウジングベアリングへの毛髪の蓄積を確認し、必要に応じて取り除きます。
- ホイールロックを点検し、アセンブリがしっかりと締まっていること、ホイールロックがタイヤに適切にかみ合っていることを確認してください。
- すべての留め具がしっかりと固定されていることを確認します。
- フレームに変形、欠陥、亀裂、窪み、または曲がりがないか検査します。これらはフレームの疲労の兆候である可能性があり、車椅子の故障につながる可能性があります。車椅子の使用を直ちに中止し、販売店に連絡してください。

3. 毎年:

- 資格のある技術者が車椅子をチェックして調整してください。



WARNING

警告: 調整後、この車椅子を使用する前に、すべての留め具がしっかりと固定されていることを確認してください。深刻なけがや損傷が発生する可能性があります。



CAUTION

注意: 留め具を締めすぎないでください。フレームのチューブが損傷する可能性があります。



DANGER

危険: これらの指示を読み、従わない場合、ユーザーまたは他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

VI. メンテナンス

C. 洗淨

1. 車軸とホイール:

- a. 湿った布で毎週車軸と車輪の周りを掃除してください。
- b. 髪の毛や糸くずがキャスターハウジングに詰まります。もつれたそれらを取り除くため、6か月ごとにキャスターハウジングを分解します。

注: この車椅子にWD-40や他の浸透オイルを使用しないでください。これにより、シールドベアリングが破壊されます。

注: キャスターやタイヤに化学洗淨剤を使用しないでください。

WARNING

警告: これらの指示を読み、従わない場合、車椅子の損傷、転倒、制御不能を引き起こし、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

D. 保管

1. 車椅子を使用しないときは、錆びや腐食の発生を防ぐため清潔で乾燥した場所に保管してください。
2. 車椅子が数週間以上保管されている場合、正しく機能していることを確認してください。状態に応じて、セクションA. 車椅子の検査のすべての項目を検査し、整備する必要があります。
3. 車椅子が2か月以上保管されている場合、使用前に販売店による検査と点検が必要です。

WARNING

警告: これらの指示を読み、従わない場合、車椅子の損傷、転倒、制御不能を引き起こし、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

VII. トラブルシューティング

A. 症状と解決策

最適なパフォーマンスを得るには、Focus CRを適宜調整する必要があります。次のページには、椅子を調整するときに発生する可能性のある症状のリストと、各症状に対する1つ以上の推奨解決策があります。最良の結果を得るには、トラブルシューティングを行うときに、2つ目の解決策に進む前に一度に1つの解決策を試してください。症状が緩和されない場合、修理のために販売店に椅子を持ち込むことを推奨します。

次ページの表をご覧ください。

症状										解決策
車椅子がま っすぐ進ま ない	車椅子が ガタつく	旋回性が鈍い	キャスター がどちらか 床に接地し ない	キャス ターが ふらつく	きしみ音 やガラガ ラ音がす る	チルト時に カラカラ音 がする/傾 かない	うまくチ ルトがで きない	チルトをか ける際は速 く傾きすぎ、戻す際 は重い	チルトをか ける際は重 く戻す際は速く動き すぎる	
✓				✓						キャスターステムとの左もしくは右側の下部キャスターハウジングベアリングの間にスベーサーワッシャーを追加します
✓		✓	✓							タイヤの空気圧が両側とも正常か確認してください。
✓	✓			✓			✓			すべての留め具が締められていることを確認します。
					✓					モジュラーフレームコンポーネント間にTeflon®ベースの潤滑剤（Tri-Flow®など）を使用します。
						✓				ケーブル/フットチルトメカニズムが調整され、歯が回転フレームの溝から外れていることを確認します（セクションV. N. 1. bまたはV. N. 2. bを参照）。
						✓	✓			ローラーベアリングの摩耗を検査し、必要に応じて交換します（セクションV. X参照）。
						✓	✓			回転フレームのベアリング表面に損傷がないか検査し、必要に応じて清掃します。
								✓	✓	重心設定を最適化します（セクションV. O. 2）。

VIII. 保証

A. 保証について

Ki Mobilityは、この車椅子のフレーム、ハンガー、チルトアセンブリ（ベアリングを含む）、およびアクスル（車軸）が、最初の購入者の生涯にわたって材料および製造上の欠陥がないことを保証します。この車椅子のその他すべてのKi Mobility製の部品およびコンポーネントは、Ki Mobilityより出荷された日から1年間、この保証に基づいて材料および製造上の欠陥が発見された場合、ユーキ・トレーディングの選択によりその部品を修理するか交換するかを決定し、無償にてこれを実施します。

フレームの想定寿命は5年です。

保証対象外

- 下記については保証されません。
 - 消耗品類：シート類、タイヤ、肘掛けパッド、チューブ、肘掛け、プッシュハンドルグリップなど。
 - 放置（メンテナンスの不実施）、事故、誤用、または不適切な設置または修理に起因する損傷。
 - 耐荷重制限を超えて使用された場合。
- 車椅子のシリアルナンバータグが削除または変更された場合、この保証は無効になります。
- 車椅子が元の状態から修正や加工がなされ、その変更が失敗に終わったと判断された場合、この保証は無効になります。
- この保証は譲渡できません。ユーキ・トレーディングの販売店を通じて最初に購入されたご利用者にのみ適用します。

Ki Mobilityの対応

唯一の対応可能な責任範囲は、対象部品の修理または交換です。

製品ご利用者様に対応いただきたいこと

- 保証期間内に対象製品の状況や不具合を申し出てください。
- 製品に関する不具合の申告や修理依頼は、製品を購入された販売店を通じておこなってください。ここで示した保障以外で、市場におけるあらゆる慣例や暗黙のルールなどによる保証は除外されます。



CE